令和５年度 入学生

歯科衛生学科

履　修　の　手　引

（シラバス）

学校法人　南学園
鹿児島医療福祉専門学校

目　次

建学の理念 …… 1

教育理念・わたくしの誓い …… 2

教育目的・教育目標 …… 3

行事計画 …… 4

1年次の主な学校行事と教科外活動 …… 5

学校生活について …… 6

クラスについて …… 9

教育課程・その基本的な考え方 …… 11

カリキュラム …… 13

シラバス …… 14

臨地実習とその計画 …… 81

介護職員初任者研修とその計画 …… 83

保護者実習 …… 85

卒業研究 …… 86

諸規定 …… 87

建学の理念

恵愛

愛はすべての根源、常に心にまことの愛を問い、さがし求めながら自分を磨き、高め、実践していく姿である。まことの愛の本質は、自己を愛するように他者を愛する自他一如の境地に達することからはじまる。その中から真の思いやりが生まれ、代償を求めない価値ある愛が芽生える。教職員も学生も真愛を求めて研鑽することに意味がある。

[教育理念]

建学の理念「真愛」の精神を基調とした生命の尊重と人間愛を基盤に、感性豊かな人間性を培い、自己と共に他者をも大切にする心と態度を養う教育を行う。

特に保健・医療・福祉に関する広い視野と高い見識を持ち、科学的思考を基盤として歯科衛生士として専門性が発揮できる能力を育成する。

また、自主的に学習していく環境を整え、生活体験や年代の違いを超えて共に学び合う意欲を醸成する。さらに、自らも生涯にわたって学習の成果を活用し、その能力と努力によって自分の夢や、末来を切り開いていく志を育成する。

わたくしの誓い

一、　わたくしはいのちを大切にします

二、　わたくしは夢に向かって進みます

三、　わたくしは品位を尊重します

四、　わたくしは規律を守ります

五、　わたくしは心身を鍛錬します

[教育目的]

歯科衛生士になるために必要な知識・技術・態度を習得すると共に、豊かな感性を培い、人間を尊重し、変化する社会に対応できる能力を備えた専門医療人を育成する。

[教育目標]

建学の理念「真愛」のもと，歯科衛生士に必要な知識と技術を修得するとともに、国家試験に合格できる専門教育を行い、豊かな教養と人格の形成に努め、広く地域社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

1　医療人としての身だしなみ、態度を育成する。

2　歯科衛生士として確かな知識と技術の修得を図る。

3　医療人として良好な人間関係を築く能力と社会性を育成する。

4　健康な身体と心の育成を図る。

5　ホスピタリティマインドを身につける。

行　事　計　画

	１　年	２　年	３　年
４月	入学式 保護者会 オリエンテーション 健康診断 人権同和教育講演会 薬物乱用防止・交通安全教室 女子学生の為の防犯教室 新入生歓迎会	健康診断 就職講話 新入生歓迎会	健康診断 第２回国試模試 臨地実習Ⅲ 就職講話 新入生歓迎会
５月	新入生宿泊研修 （１泊２日）	歯と口の健康週間実習 （於：幼稚園）	歯と口の健康週間実習 （於：小/中学校）
６月	歯の口の健康週間実習 終講試験	歯の口の健康週間実習 （於：盲学校・養護学校他） 終講試験	歯と口の健康週間実習 （於：小/中学校） 臨地実習Ⅲ 保護者実習④
７月	終講試験 夏休み開始	終講試験 交通安全教室 夏休み開始 保護者会	臨地実習Ⅲ 就職活動開始 保護者会 第３回国試模試
８月	夏休み	夏休み	夏休み 第４回国試模試
９月	終講試験		第５回国試模試 臨地実習Ⅲ
１０月	スポーツ大会 学園祭 終講試験	戴帽式 臨地実習Ⅱ（基礎） 学園祭 終講試験	臨地実習Ⅲ（第Ⅵ期・Ⅶ期） 第６回国試模試
１１月	終講試験	保護者実習① 終講試験	臨地実習Ⅲ（Ⅶ期） 第７回国試模試 終講試験
１２月	終講試験 冬休み	終講試験 冬休み	終講試験 卒業研究発表会 保護者会 海外研修旅行 国家試験対策開始 第８回国試模試
１月	終講試験	終講試験 保護者実習② 第1回国試模試	国家試験対策　補講 第９.10回国試模試
２月	終講試験 臨地実習Ⅰ	保護者面談 臨地実習Ⅱ	国家試験対策 卒業判定会 第11.12.13回国試模試
３月	テーブルマナー講座 進級判定会 創立記念日行事	保護者実習③ 進級判定会 創立記念日行事	歯科衛生士国家試験（於 福岡） 卒業式

１年次の主な学校行事と教科外活動

１　集団活動を通して、メンバーシップ・リーダーシップを体験し自主性・協調性・創造性を養う。
２　人とのかかわりの中で視野を広げ、豊かな表現力を養う。
３　主体的な態度を身につける。

項　　目	時　期	目　　的
入 学 式	４月	厳粛な式に臨み、本校学生としての自覚をもつ。
入学時ガイダンス		学則・教育課程を理解し、学習への動機付けを図るとともに新しい環境にスムースに適応できるようにする。
健康診断		全身状態を確認し自己管理に役立てる。 臨地実習に向けて抗体検査（B型肝炎・流行性耳下腺炎他）を行う。
対 面 式		上級生との良い人間関係を作る機会とする。
新入生歓迎会		新入生を歓迎し全学科・全学年と教職員の交流を深める。
新入生宿泊研修	５月	クラスメートや他学科と交流を深め仲間作りの機会とする。
歯と口の健康週間行事	６月	公衆衛生活動に参加し専門職としての自覚を確認する。
戴帽式参列	10月	２年生の戴帽式に参列し、先輩の姿から歯科衛生士になるという自覚を確認する。
スポーツ大会		主体的な活動を通して責任感と行動力を養う。 選手として出場する者・応援する者それぞれの立場でスポーツに親しみ愛校心を深める。
学 園 祭		クラス全員力を合わせて準備し、クラスメートとの融和と団結を深めていくとともに他学科との交流を深める。
卒業生特別講話	５月～	先輩歯科衛生士の現場体験を聞くことにより目的・目標を明確にし、今後の学習意欲へつなげる。
臨地実習Ⅰ	２月	歯科医院にスタッフとして入り雰囲気を知る。体験を通して今後の学習や臨地実習Ⅱ・Ⅲに向けての学びを深める。
テーブルマナー講座	３月	女性としての食事マナーについてレストランで専門家より実際を学ぶと共に食について関心を深める。
茶道講座		おいしいお茶の入れ方、出し方等の作法を学ぶとともに日本人としてお茶に親しむ心を育てる。
ソーイング講座		簡単なクラフトを学び、趣味を持つことの喜びを知る。
南学園創立記念行事		建学の理念を確認するとともに目的達成に向けて気持ちを新たにする。

学校生活について

本校学生は、個人として尊重されるとともに学校内外における行動に対して自らすべての責任を負うものであり、常に良心に基づいて行動し自らを律しなければならない。

本校学生は、教育目標を達成するために、以下の事項について理解し遵守しなければならない。

１．保証人

１）本校の教育方針に協力し学生の一身上の責任を負うものとする。

２）住所の変更等があった場合は速やかに届けなければならない。

３）保証人は身元引受人として保護者、またはこれに準ずる者をあてる。

２．授業時間等

１）学生は８時５５分までに登校し、原則として１７時１５分までに下校する。

２）授業開始５分前に所定の席に着く。

３）１コマ９０分の講義中は私語を慎み、他人に迷惑をかけない。

４）登校したら携帯電話やスマートフォン等は教員室に預ける。

３．学生への連絡について

１）原則として朝礼・終礼にて口頭で連絡する。

２）学生用の掲示板に掲示する場合があるので、各自気をつけて見落としがないようにする。

３）掲示は基本的に１日とする。見落としによる不都合が生じても異議は認めない。

４）緊急時は連絡網等で連絡する。

４．電話及び面会の取り扱い

１）緊急やむをえない場合を除き、講義中および実習中の電話・面会の取次ぎはしない。

５．ロッカーの使用について

１）学生各自に貸与する。鍵は入学後に受け取り、卒業、除籍時に直ちに返却する。

２）個人の責任のもとに常時施錠し盗難事故に注意すること。紛失があっても学校は責任を負わない。

３）付属品の破損については、原則として本人が弁償するものとする。

４）ロッカーに実習着等は保管し、ロッカー室で更衣する。

６．清潔・整理・整頓について

１）１日１回決められた場所の清掃を行う。

２）校舎、その他校内の施設や備品を不注意に破損・汚損または紛失した場合は、直ちに届け出て指示に従う。

３）各自の保管棚は常に整理しておく。

７．飲食に関すること

１）食事は指定された教室で摂る。

８．喫煙について

１）学校内は全面禁煙、登校から下校まで喫煙をしてはならない。

２）歯科衛生士として、また健康のためにも喫煙しない。

９．通学について

１）自動車および自動二輪車、自転車は許可制とし、定められた場所に駐車駐輪する。

２）交通ルールを守り、決められた場所から出入りする。

３）バス利用者はマナーを守る。

10．服装・身だしなみについて（学生便覧 P42）

１）本校身だしなみ紀律に則る。

11. アルバイトについて

1）アルバイトは許可願を提出し、学校長の許可を得ること

2）アルバイト先については、深夜にわたる仕事やコンパニオン、風俗に関する仕事等は禁止する。

12. 学生の相談、進路指導等について

1）カウンセリング室が月 1 回放課後に開設され、臨床心理士が無料で相談に応じる。（予約制）

2）「学生なんでも相談室」が常時設置され本校教員が相談に応じる。

3）学生の悩み、進路指導等については担当教員が申し出により随時相談に応じる。

13. 勧誘活動について

1）在学中は勧誘活動をしてはならない。

14. その他

1）昼休みに、やむを得ず校外にでる場合は許可を得る。

2）教科書等自分の持ち物には必ず記名する。

3）貴重品等はロッカーで保管する。

クラスについて

１．クラス役員について

１）クラスに次の役員をおく。

総務　　１名　　副総務　　１名　　会計　　２名

レクリェーション係　　５名　　生活係　　４名

保健係　　２名　　図書係　　１名

各教科担当　　１～２名

２）役員の任期は６ヶ月とする。（４月～９月、１０月～３月）

３）３年次は、上記役員に加えて下記の係をクラスにおく。

国試対策係　　３名以上　　卒業準備係　　６名以上

2. クラス役員の活動内容

１）総務、副総務

①リーダーシップを発揮してクラスを統率しクラスづくりを行う。

②担任との連絡、クラスへの伝達を行う。

③話し合い時の司会、書記業務を行う。

２）会計係

①教員と連携の下にクラスの金銭徴収を確実に行う。

②集金がスムースに行われるよう未納者に対して呼びかけを行う。

３）レクリェーション係

①新入生歓迎会・新入生宿泊研修・学園祭について企画運営にあたる。

②上記について委員会が結成された場合クラスと委員会との連絡係を務める。

４）生活係

①茶髪・制服・清掃等の指導に当たる。

②定期的（毎週金曜日）に上記について点検を行い報告をする。

５）保健係

①クラスの体調不良者を支援し教員に連絡する。

②保健室の清掃（布団の管理など）を行う。

６）図書係

①図書便りを掲示する。

②図書返却遅滞者に対し返却の指導をする。

③月刊紙を毎月入れ替え、活用につなげる。

７）各教科担当

①授業の開始までに担当講師に準備すべき物品等を確認し準備する。

②授業の終わりに準備したものを定位置に返却する。

③講師より伝達を受けクラスに伝える。

８）国家試験対策係

①国家試験全員合格に向けてクラスをまとめ、雰囲気づくりに努める。

②国家試験補講時の準備、片付け、講師との連絡、準備を行う。

９）卒業準備係

①謝恩会係、アルバム委員、記念品選定委員に分かれて卒業学年の１２月より準備作業を行う。

②卒業学年の１２月より定例会に出席し、クラスとの連携を図る。

[教育課程]

本校歯科衛生学科教育課程は基礎分野、専門基礎分野、専門分野、選択必修分野で構成され、各分野の内容は以下のとおりである。

基礎分野は、基礎専門分野と専門分野を理解するために身につけておくべき基本的な事項である。多面的な要素を持つ人間の構造を理解し、よりよい人間関係を結べるようにするとともに、科学的根拠に基づく思考能力を身につける基盤となる内容とした。

専門基礎分野は、基礎分野で培った資質を土台として、人体や口腔の構造と機能ならびに疾病の成り立ちから回復過程を理解し、歯・口腔の健康と予防に関わるしくみについて総合的に理解できる能力を養う内容とした。

専門分野は、臨床歯科医学について関連性を学びながら、歯科予防処置論、歯科保健指導論、歯科診療補助論、を柱として多方面にわたって理解を深め、口腔保健管理者としての確かな知識と技術を習得できる内容とした。演習・実習をより多く取り入れ、少人数制のグループワークによる充実した指導を心掛け、科学的思考を促すためにカンファレンス等を導入し、さらに放課後等の自主学習を取り入れ技術の習得・熟練ができるように配慮した。

臨地実習は、歯科衛生業務を理解するために、歯科医療の場や地域保健活動などの場を通して、歯科衛生士として必要な知識・技術及び態度を身につける内容とした。
また、学内で学習した内容を歯科医院はじめ、医療・介護保健施設等の現場で確認するとともに、知識・技術を統合し深める内容とした。

選択必修分野では高齢者・障害者を理解するとともに、内面・外面から輝きをもった人間をめざして、幅広い教養を身につけられるようにした。
また、日常生活の中で食生活や挨拶などの基本的生活態度が身につくような内容にした。

教育課程の基本的な考え方

目標

- プロフェッショナルな自覚と真愛の心をもった専門職業人の育成
- 資質向上に寄与することのできる確かな知識と技術の習得
- ホスピタリティマインドの内容を身につける（入学祝本）
- 健康な身体と心の育成を目指す
- 他職種と連携のできる力の習得
- EBM に基づいた科学的な判断のできる人材の育成

教育内容

１．口腔ケアのプロフェッショナルの育成

口腔内の観察力
予防プログラムの診断力
予防処置の技術力
口腔衛生の教育力

２．人間教育（感じの良い人間性）

進んで自分から誰にでも挨拶ができる
規則を守る
指導を素直に聞く心

３．リーダー教育

マネージメント力
探究心を育てる
カウンセリング力
情報収集とその選別能力
コミュニケーション力

４．時代にマッチした教育

高齢者・障害者への対応能力
全身疾患と口腔との関係の理解
介護および介護予防能力
感染予防対策能力

５．健康な身体と心の育成

自己管理能力
健康感教育
食教育

歯科衛生学科カリキュラム

教育内容	科目	講師名	単位数	時間数			1年	2年	3年
[基礎分野]10単位				講義	実習	計			
科学的思考の基盤（4単位）	生物学	上水樽　豊己	1	30		30	30		
	化　学	黒木　幹博	1	30		30	30		
	情報処理技術	伊堂寺　修	2	60		60			60
人間と生活（6単位）	心理学	今林　俊一	1	30		30	30		
	倫理学	小田原　啓朗	1	30		30	30		
	人間関係論	森山　重康	1	30		30	30		
	キャリア形成論	末原　勉	1	30		30	30		
	歯科英語	河野　博史	1	30		30	30		
	英会話	濵田　孝子	1	30		30		30	
小 計			10	300		300	210	30	60
[専門基礎分野]22単位									
人体・歯・口腔の構造と機能（10単位）	解剖学	峰　和治	2	45		45	45		
	口腔解剖学	峰　和治	1	30		30	30		
	組織発生学	竹中　正巳	1	30		30	30		
	歯牙解剖・歯型彫刻	田松　裕一	1	15		15		15	
	生理学・口腔生理学	三浦　裕仁	1	30		30	30		
	歯・口腔の生化学	大西　智和	2	45		45	45		
	栄養学	河井　マサ子	2	45		45	45		
疾病の成り立ち及び回復過程の促進（5単位）	病理学・口腔病理学	赤坂　恵理	2	45		45	45		
	薬理学・口腔薬理学	富田　和男	2	45		45	45		
	微生物学・口腔微生物学		1	30		30	30		
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ（7単位）	保健生態学Ⅰ	薬師寺　毅	2	50		50	50		
	保健生態学Ⅱ	薬師寺 毅・石橋 貴樹	2	50		50		50	
	保健情報統計学	藤島　慶	1	30		30		30	
	社会保険・社会保障・社会福祉	笹峯　万起子	1	15		15		15	
	看護学		1	30		30		30	
小 計			22	535		535	395	140	0
[専門分野]60単位									
歯科衛生士概論（2単位）	歯科衛生学総論	飯野　和男	1	20		20	20		
	歯科臨床概論	飯野　和男	1	20		20	20		
臨床歯科医学（13単位）	保存修復学	伊地知　博史	2	35		35		35	
	歯内療法学	上稲葉　隆	2	35		35		35	
	歯周病学	野口　和行	2	40		40		40	
	歯科補綴学	門川　明彦	1	30		30		30	
	歯科矯正学	飯野　祥一朗	1	30		30		30	
	口腔外科学	芹澤　慎生	1	30		30		30	
	歯科麻酔学		1	15		15		15	
	小児歯科学	坪水　良平	1	30		30		30	
	高齢者歯科学	長岡　英一	1	30		30		30	
	障害者歯科学	中山　朋子	1	15		15		15	
歯科予防処置論（9単位）	歯科衛生学予防処置論Ⅰ	専　任	2	20	40	60	60		
	歯科衛生学予防処置論Ⅱ	専　任（佐別當 水紬記）	2	20	60	80		80	
	歯科衛生学歯科衛生過程	上敷領　清晴	2	60		60	60		
	全身管理と感染予防	杉原　一正	2	45		45		45	
	歯科衛生学周術期の口腔ケア	田島　香菜	1	15		15		15	
歯科保健指導論（7単位）	歯科衛生学保健指導論Ⅰ	専　任	2	20	40	60	60		
	歯科衛生学保健指導論Ⅱ	専　任	2	20	40	60		60	
	歯科衛生学保健指導論Ⅲ	専　任	2	20	40	60			60
	栄養指導法（含調理実習）	加治　美穂	1	10	20	30	30		
歯科診療補助論（9単位）	歯科診療補助論Ⅰ	白川 亜季	3	30	60	90	90		
	歯科診療補助論Ⅱ	中村　芳子	3	30	60	90		90	
	歯科材料学	藤井　孝一	1	30		30	30		
	診療報酬請求事務	岩元　佳織	1	15		15			15
	歯科口腔放射線論	犬童 寛子・河野 一典	1	20	10	30		30	
臨地実習（含臨床実習）（20単位）	臨地実習Ⅰ	専　任	1		45	45	45		
	臨地実習Ⅱ	専　任	4		180	180		180	
	臨地実習Ⅲ	専　任	15		675	675			675
小　計			60	685	1270	1955	415	790	750
〔選択必修分野〕7単位									
〔必修〕7単位	人間形成論Ⅰ	下田平 江理・赤岩 広志	1	30		30	30		
	人間形成論Ⅱ	有村　靖子・川畑　敬志	1	30		30	30		
	音　楽	海老原　麻衣	1	10	20	30	30		
	保健体育（レクリェーション）	平川　洋介	1	10	20	30	30		
	歯科衛生学特論Ⅰ	専　任	1	30		30	30		
	歯科衛生学特論Ⅱ	専　任	1	30		30		30	
	歯科衛生学特論Ⅲ	専　任	1	30		30			30
必修	基本介護技術	脇薗 とし子		40		40		40	
	特別講義（摂食嚥下・クラフト・作法等）	大園 さゆり・川添ふさえ・春口 富美子		27		27	12	15	
小　計			7	237	40	277	162	85	30
合計			99	1757	1310	3067	1182	1045	840

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
生 物 学	上水樽　豊己	１年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	医療に携わる者として必要とされる、生物学の基礎的な内容を理解する。

講義回数	講　義　内　容
1	生命とは何か，生命の誕生
2	生命の変遷，生物は細胞からできている
3	細胞小器官，細胞のさまざまな活動
4	細胞の一生，単細胞生物と多細胞生物
5	ヒトの組織，ヒトの器官
6	生殖の方法，減数分裂
7	遺伝とその法則，生命をつくる仕組み
8	遺伝子を働かせる仕組み
9	発生の過程，発生の仕組み
１０	感覚器と刺激の受容，神経系による刺激の伝達
１１	中枢神経と末梢神経，反応と効果器
１２	ホメオスタシス，ホルモンとその働き
１３	自律神経とホルモンの協調作用，生体防御
１４	動物の行動，ヒトの進化と未来
１５	基礎生物学全般のまとめ，終講試験

履 修 上 の 要 件	
教　科　書　等	歯科衛生学シリーズ　：　生　物　学（医歯薬出版）
使　用　機　器　等	液晶プロジェクター・パソコン・プリント
成 績 評 価 の 方 法	終講試験70%，小テスト20%，授業態度10%
備　　考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
化　学	黒木　幹博	１年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	歯科衛生士としての必要な化学の基礎知識の習得及び歯科医学と化学の関連を認識できる。

講義回数	講　義　内　容
1	物質の分類と構造、元素、原子、イオン、元素の周期律
2	原子量、分子量、化学結合の種類、プラークの付着と化学結合
3	気体の法則、空気の組成、気体の医療生活への応用
4	物質の溶解、水溶液、希薄水溶液の性質、血液の浸透圧
5	コロイド溶液、ゲルと印象材　イオン導入法とフッ化物塗布
6	酸とアルカリ、水素イオン濃度とｐＨ、中和反応
7	酸化と還元、金属のイオン化傾向、歯科用アマルガム
8	化学反応、化学平衡、齲蝕とヒドロキシアパタイト
9	有機化合物の種類と構造、炭化水素化合物の種類
１０	ハロゲン化物、アルコール、フェノール、エーテル、カルボン酸、殺菌剤
１１	プラスチック、合成ゴム、レジンと光重合、印象材や充填材
１２	水の構造と性質、ヒトの主要無機元素と重要元素
１３	ヒトの生体成分と栄養素、糖質、タンパク質、齲歯と甘味料
１４	脂質の分類、脂肪酸の種類、核酸とＤＮＡ，ＲＮＡ、遺伝子の構造
１５	終講試験　試験問題解説、化学の総まとめ

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ　：　化　学（医歯薬出版）
使用機器等	
成績評価の方法	終講試験　70～80％　　小テスト・平常点　20～30％
備考	資料　文英堂「化学Ⅰ・Ⅱ」　医学書院「生化学」

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
情報処理技術	伊堂寺　修	３年次	６０時間 ２単位	講義 演習

到達目標	パソコンで主に使用される、ワード・エクセル・パワーポイントの基礎を学び、　文書作成やグラフ作成を駆使し実習レポートの作成ができる。

講義回数	講義内容
1	コンピューターの基礎知識
2	Windowsの基本操作（フォルダ作成・エクスプローラ）
3	文書作成基本Ⅰ　入力と保存
4	文書作成基本Ⅱ　書式の編集
5	文書作成基本Ⅲ　クリップアートの利用
6	文書作成基本Ⅳ　ワードアートの利用と作成
7	文書作成基本Ⅴ　表の作成
8	文書作成基本Ⅵ　文書の印刷
9	文書作成応用Ⅰ　SmartArtの利用と作成
１０	文書作成応用Ⅱ　図形の利用（地図作成）検索と置換
１１	表計算基本Ⅰ　エクセルの基本操作
１２	表計算基本Ⅱ　表の作成・編集
１３	表計算基本Ⅲ　四則演算と関数
１４	表計算基本Ⅳ　グラフ作成
１５	表計算基本Ⅴ　データベースの利用
１６	表計算基本Ⅵ　シートの印刷
１７	表計算応用Ⅰ　複数シートの操作・端数処理を行う関数
１８	表計算応用Ⅱ　IF・VLOOKUP関数　検索と置換
１９	PowerPoint基本Ⅰ　PowerPointの基本操作
２０	PowerPoint基本Ⅱ　プレゼンテーションの作成と編集
２１	PowerPoint基本Ⅲ　図解の作成
２２	PowerPoint基本Ⅳ　オブジェクトの挿入
２３	PowerPoint基本Ⅴ　特殊効果の設定
２４	PowerPoint基本Ⅵ　資料の作成と印刷
２５	Word・Excel・PowerPointの連携
２６	Word・Excel・PowerPointのまとめ
２７	実習レポート作成　1
２８	実習レポート作成　2
２９	終講試験（Word・Excel・PowerPoint）
３０	終講試験（Word・Excel・PowerPoint）

履修上の要件	パソコン操作及びオフィスソフトを使い実習レポートが作成できること
教科書等	（ＦＯＭ出版よくわかるシリーズ） Word2010＆Excel2010＆PowerPoint2010
使用機器等	Windowsパソコン・プロジェクター・プリンター
成績評価の方法	終講試験100%
備考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
心 理 学	今林　俊一	１年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	歯科診療における患者・医療スタッフに対する心理学的理解ができる。

講義回数	講　義　内　容
1	心と行動の基礎：身体，視覚，聴覚他
2	心と行動の基礎：知能，言語，情緒他
3	患者の心理：患者特有の性格と不安
4	患者の心理：患者と適応障害
5	歯科における心理診断
6	生命の連続性（生殖・発生）
7	歯科患者への対応：乳児期～成人期
8	歯科患者への対応：老人と心身障害者
9	歯科医院内のコミュニケーション
１０	性格と性格検査
１１	知能と知能検査
１２	問診とカウンセリングの方法
１３	心理学と歯科学の関係
１４	まとめと質問に答える
１５	終講試験・解説

履 修 上 の 要 件	１．予習・復習に努める。 ２．質問や感想等，積極的に参加する。
教　科　書　等	歯科衛生学シリーズ　：　心　理　学（医歯薬出版）
使　用　機　器　等	ＤＶＤ
成 績 評 価 の 方 法	日常評価 20%、終講試験（筆記試験）80%
備　　考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
倫 理 学	小田原　啓朗	１年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	人の行動や判断の規範となる物事の道徳的な評価について、先人の思想や今日的事例等を手がかりに、思考を深め、より善い生き方を探究する態度を身に付ける。

講義回数	講　義　内　容
1	倫理学とは何か　倫理学を学ぶ意義、社会における様々な規範の根拠を考える
2	人間らしさとは　人間と動物の違い、パスカル、リンネ・ベルクソン、ホイジンガ
3	善く生きること　ソクラテスの生き方・死の意義、ハイデッガーの「死への存在」など
4	愛について　古代ギリシア思想の愛、キリスト教（アガペー・隣人愛）、仏教（慈悲）など
5	人間と苦しみ　仏教（煩悩・四苦八苦）・ヤスパース（限界状況）など
6	知識と偏見　ロック（白紙説）とベーコン（帰納法・イドラ論）、デカルト（方法的懐疑・演繹法）など
7	自由と責任　自然法思想、社会契約説、カント（自律としての自由）サルトル（自由の刑）など
8	道徳的行為とは　法律・マナーとの違い、カント（道徳法則な・目的の王国）など
9	幸福について　功利主義者ベンサム・ミルの幸福論、セリグマンのポジティブ心理学など
１０	真理の探究　キルケゴール（主体的真理）、ジェームズ（実用主義）、デューイ（道具主義）など
１１	より善い人間関係とは　儒教思想（孔子・孟子）とその問題点、和辻哲郎（間柄的存在）、ソーシャルスキルトレーニングなど
１２	環境倫理　自然の生存権・世代間倫理・地球有限主義、ＳＤＧｓなど
１３	生命倫理　バイオエシックス、生まれ方や死の判定の問題、死の選び方・治療態度の問題など
１４	職業倫理　人間は何のために働くのか、医療倫理４原則、歯科衛生士としての倫理観など
１５	終講試験・まとめ

履 修 上 の 要 件	
教　科　書　等	講義プリントや資料をコピーして配布
使　用　機　器　等	液晶プロジェクター、黒板　等
成 績 評 価 の 方 法	学習態度40％（授業時の姿勢・レポート提出）　終講試験60％（筆記試験）
備　　考	演習時のグループ討議では、お互いに自分の規範的判断の理由を他者の納得できる形で表現（記述・発表）する。ファシリテータや発表者は輪番制とする。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
人間関係論	森山　重康	１年次	３０時間 １単位	講義 演習

到達目標	人間関係の基本的なあり方を理解し,多くの具体的事例をもとにその内面化を図り、社会生活における実際的行動として具現できる。

講義回数	講　義　内　容
1	社会生活とコミュニケーション１　コミュニケーションの目的
2	社会生活とコミュニケーション２　コミュニケーションの技術
3	社会生活とコミュニケーション３　コミュニケーションの実践
4	社会生活とコミュニケーション４　コミュニケーションの実践
5	教育ゲーム　『渚の愛情物語』
6	グループワークの振り返りと発表
7	講義　『対話の進め方』
8	教育ゲーム『ウインターサバイバル』
9	グループワークの振り返りと発表
１０	教育ゲーム『９人のポジション』
１１	グループワークの振り返りと発表
１２	講義　『良好な人間関係を構築するコーチング』
１３	総まとめ１
１４	総まとめ２
１５	終講試験・まとめ

履修上の要件	
教科書等	資料をコピーして配布
使用機器等	
成績評価の方法	学習態度60%(聴く姿勢、積極的な参加、グループへの貢献等)、終講試験40%
備考	

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
キャリア形成論	末原　勉	１年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	社会の変化に対応して主体的に自己の進路を選択できる能力、勤労観、職業観を身につけ、社会人、企業人として自律できるようになる。

講義回数	講義内容
1	キャリア時代への対応：環境変化の現状を理解し、キャリア教育の意義、キャリアの定義、エンプロイアビリィティの開発の必要性を学習する
2	キャリア形成ステップⅠ：意識基盤分析（自己モチベート要因分析シートに取り組み、どの方向に向かうと自分はやる気が起こるか理解し、自己分析を図る）
3	キャリア形成に必要な考え方の確認：依存から自律、意識変革、行動変革、ＥＱ向上による感情コントロール、人間性の成長について学習する
4	キャリア形成ステップⅡ：能力基盤分析（行動特性･能力ファクター分析シートに取り組み、自分の基本能力の程度を理解し、自己分析を図る）
5	キャリア形成のステップイメージの確認：ステップⅣのキャリアビジョン形成に対し、ピラミッド構造となる、ステップⅠ、ステップⅡ、ステップⅢの段階的基盤分析の必要性について学習する
6	キャリア形成ステップⅢ：実績基盤分析（学生生活、キャンパスライフの成功体験、失敗体験を分析することの必要性、キャンパスライフの送り方について考え、自己分析を図る）
7	キャリア形成ステップⅣ：キャリアビジョン･イメージづくりと21世紀に企業が求める人材像を考える（Will･Can･Mustシート作成による「したいこと」「できること」「するべきこと」、必要な能力を理解し、自己分析を図る）
8	エゴグラム性格分析、AIDMA分析による学生生活の振り返り：得意とする科目、クラブ活動、サークル活動、アルバイト体験、ボランティア体験などの学生時代に取り組んだことを通して、その教訓を整理する
9	応募する歯科医院を選ぶために必要なこと：応募する歯科医院の調べ方、収集する情報のチェックポイントを学習する
１０	応募する歯科医院の志望理由の整理、就職説明会参加の必要性、会社内の職種、仕事：応募する歯科医院のAIDMA分析による絞り込みのため、注目･興味･期待･価値について整理し、その上で今後の取り組みについて目標を立てる
１１	何故歯科衛生士を目指すのか、その仕事を希望した理由の整理、インターンシップ参加の目的：歯科衛生士という仕事を希望する動機などについてAIDMA分析で整理する
１２	就職活動の計画、採用環境への理解：就職活動スケジュール、就活ノート作成、企業案内の請求、求人票研究について学習する
１３	応募書類の書き方：履歴書の書き方、身上書の書き方、応募書類送付の際の要点、企業訪問、企業説明会参加の要点、ＯＢ･ＯＧ訪問の注意点などを確認する
１４	就職試験対策：エントリーシート作成、作文小論文作成、一般常識試験への準備、想定質問対策、面接時の対策などを学習する
１５	終講試験、まとめ

履修上の要件	学校の方針による出席率を満たし、成績評価の100点満点で60点以上を取得すること。
教科書等	学生のためのキャリア形成と就職成功へのステップ(実教出版)
使用機器等	黒板と配布するプリント
成績評価の方法	終講試験100％
備考	特になし

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科英語	河野　博史	１年次	３０時間 １単位	講義 演習

到達目標	歯科領域、特に臨床において日常的に使用される英単語や英文を使えるようになる。

講義回数	講　義　内　容
1	歯科英語概論，電話での予約対応
2	小テスト（電話での予約対応），処方箋の要望
3	小テスト（処方箋の要望），急患対応
4	小テスト（急患対応），国民健康保険
5	生命の連続性（生殖・発生）
6	小テスト（症状の確認），既往歴の聴取
7	小テスト（既往歴の聴取），歯周病
8	小テスト（歯周病），妊娠性歯肉炎
9	小テスト（妊娠性歯肉炎），歯磨きが必要である理由
１０	小テスト（歯磨きが必要である理由），インフォームド・コンセント
１１	小テスト（インフォームド・コンセント），シーラント
１２	小テスト（シーラント），フッ素塗布
１３	小テスト（フッ素塗布），子供用刷掃指導
１４	小テスト（子供用刷掃指導），大人用刷掃指導
１５	歯科英語総括，終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ　：　歯科英語（医歯薬出版）
使用機器等	CD等
成績評価の方法	小テスト15%、終講試験85%
備考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
英会話	濵田　孝子	２年次	３０時間 １単位	講義 演習

到達目標	海外旅行の英会話の基本フレーズを、ロールプレイ等を用いて場合に応じた対応（受け答え）を習得できる。

講義回数	講　義　内　容
1	基本フレーズ「あいさつとお礼の言い方」「助動詞・疑問文の使い方」 CD①(ロールプレイ)
2	飛行機内・税関「基本フレーズ」 「応用フレーズ」Vocabulary＜機内・入国関連＞ CD(ディクテーション)
3	ホテルで「基本フレーズ（can）」 「応用フレーズ」Vocabulary＜宿泊関連＞ CD②(ロールプレイ)
4	レストランで「基本フレーズ（現在完了）」 「応用フレーズ」Vocabulary＜食事関連＞ CD③(ロールプレイ)
5	観光案内所・観光地「基本フレーズ(would like)」 「応用フレーズ」Vocabulary＜観光関連＞ CD④(ロールプレイ)
6	道を尋ねる・タクシーに乗る「基本フレーズ（命令、依頼の表現）」 「応用フレーズ」Vocabulary＜道すじ・場所関連＞ CD⑤(ロールプレイ)
7	電車、地下鉄、バスに乗る「基本フレーズ（時間に関する表現）」 「応用フレーズ」Vocabulary＜交通機関関連＞ CD⑥(ロールプレイ)
8	ショッピングをする「基本フレーズ（比較級と最上級①）」 「応用フレーズ」Vocabulary＜ショッピング関連＞ CD⑦(ロールプレイ)
9	銀行・郵便局で「基本フレーズ（比較級と最上級②）」 「応用フレーズ」Vocabulary＜両替・郵便関連＞ CD⑧(ロールプレイ)
１０	芸術・文化に触れる「基本フレーズ（when,where,why,how) 「応用フレーズ」Vocabulary＜観劇・鑑賞関連＞ CD⑨(ロールプレイ)
１１	助けを求める「基本フレーズ(what)　」 「応用フレーズ」Vocabulary＜事故関連＞ CD⑩(ロールプレイ)
１２	忘れ物・盗難「基本フレーズ(Let)　」 「応用フレーズ」Vocabulary＜盗難関連＞ CD⑪(ロールプレイ)
１３	病気・けが「基本フレーズ（数・量の表し方）」 「応用フレーズ」Vocabulary＜病気関連＞ CD⑫(ロールプレイ)
１４	人を誘う、自己紹介の仕方「基本フレーズ（人を誘う時の言い方）」 「応用フレーズ」Vocabulary＜パーティー関連＞ CD(ディクテーション)ストーリー（読解）
１５	終講試験

履修上の要件	
教科書等	英会話「基本フレーズで話せる（海外旅行編）」(山下出版)
使用機器等	ＣＤ
成績評価の方法	終講試験（発語リスニング 70%、筆記試験 20%、Ｑ＆Ａテスト 10%）
備考	

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
解剖学	峰　和治	１年次	４５時間 ２単位	講義

到達目標	人体の正常な構造に関する基礎的な知識を修得し、口腔と全身との相互的な関係を把握することを目標とする。 1）全身の主要な骨と関節の構造を説明できる 2）全身の主要な筋肉の構造と運動を説明できる。 3）内臓の構造を系統別（消化器・呼吸器・泌尿生殖器・内分泌器）に説明できる。 4）心臓と血管系・リンパ系の構造を説明できる。 5）神経系の分類と構造を説明できる。 6）感覚器の構造を説明できる。

講義回数	講義内容
１	解剖学概論：人体の構造と解剖学用語
２	骨格系１：骨の種類・内部構造・成長、関節
３	骨格系２：頭蓋骨
４	骨格系３：体幹骨・体肢骨
５	筋系１：筋の構造と分類
６	筋系２：頭頸部の筋
７	筋系３：体幹・体肢の筋
８	消化器系１：消化管
９	消化器系２：消化腺
１０	呼吸器系：気道と肺
１１	泌尿器系：腎臓と尿路
１２	生殖器系：男女の生殖器
１３	内分泌系：内分泌腺とホルモン
１４	脈管系１：心臓
１５	脈管系２：主要な動脈と静脈
１６	脈管系３：リンパ管とリンパ節
１７	神経系１：中枢神経
１８	神経系２：脳神経
１９	神経系３：脊髄神経、自律神経
２０	感覚器系１：視覚器、聴覚・平衡覚器
２１	感覚器系２：味覚器、嗅覚器、外皮
２２	総まとめ
２３	終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ人体の構造と機能1 「解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版）
使用機器等	パソコン・液晶プロジェクターなどを使用する。 毎回、授業内容をまとめたプリント１枚程度配布する。
成績評価の方法	終講試験（筆記試験点満点）による。ただし、期間の半ばで実施する中間試験（100点満点でつけ、最終成績評価の参考にする）が60点以上（60点未満の場合はレポート提出）を前提とする。
備考	中間試験は講義の進行状況に応じて期日を決める。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
口腔解剖学	峰　和治	１年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	口腔の構造、特に歯と歯周組織の正常構造を理解し、隣接組織との相互関係について把握することを目標とする。 1）永久歯と乳歯の基本形態を歯種別に説明できる。 2）歯列と咬合および異常歯について説明できる。 3）歯周組織の構造について説明できる。 4）口腔の骨・筋・関節について説明できる。 5）口腔に分布する血管・神経について説明できる。 6）口腔の軟部構造（口唇・頬・舌・口蓋・唾液腺）について説明できる。 7）摂食・嚥下に関係する口腔と咽頭の構造について説明できる。

講義回数	授　業　内　容
1	口腔解剖学概論：口腔の定義、歯の概論
2	永久歯の形態１：前歯
3	永久歯の形態２：小臼歯
4	永久歯の形態３：大臼歯
5	乳歯の形態：乳歯の特徴
6	歯列と咬合、異常歯
7	歯周組織：歯肉、歯根膜、歯槽骨、セメント質
8	口腔前庭と固有口腔：口唇・頬、舌、軟口蓋
9	口腔に関係する骨：上顎骨・下顎骨、顎関節
１０	口腔に関係する筋：咀嚼筋・表情筋
１１	口腔に分布する血管：外頸動脈の枝、リンパ節
１２	口腔に分布する神経：三叉神経、顔面神経
１３	唾液腺、咽頭
１４	嚥下、まとめ
１５	終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版）
使用機器等	パソコン・液晶プロジェクター、歯牙模型、顎模型などを使用する。 毎回、授業をまとめたプリント１枚程度を配布する。
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）100％
備考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
組織・発生学	竹中　正巳	１年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	細胞，組織レベルでの人体の構造と人体の発生過程を理解することを目標にする。特に口腔領域の組織構造，発生過程の知識の習得に努める。

講義回数	講　義　内　容
1	細胞：細胞の構造，細胞の一生
2	組織：組織の種類，上皮組織
3	支持組織，筋組織
4	神経組織，皮膚と粘膜
5	精子・卵子の発生，染色体，受精と着床
6	三胚葉の形成
7	胎児の成長と発育，骨の発生
8	顔面の発生：鼻・上唇・下唇
9	口腔（口蓋・舌）と歯の発生
１０	口腔組織：エナメル質
１１	口腔組織：象牙質
１２	口腔組織：セメント質
１３	口腔組織：歯髄，歯根膜
１４	口腔組織：歯槽骨，歯肉，歯の萌出
１５	まとめ・終講試験

履修上の要件	解剖学・口腔解剖学の学習で肉眼レベルでの人体構造の知識を身につけていること。
教科書等	歯科衛生学シリーズ　人体の構造と機能1 「 解剖学・組織発生学・生理学」， 歯・口腔の構造と機能「 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 」（医歯薬出版）
使用機器等	パソコン・液晶プロジェクター
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）100%
備考	

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
歯牙解剖・歯型彫刻	田松　裕一	２年次	１５時間 １単位	講義 演習

到達目標	歯牙の形態的特徴を理解し，自ら表現することができる。

講義回数	講義内容
1	前歯形態復習、彫刻実習の説明、上顎中切歯の彫刻（概形1）
2	上顎中切歯の彫刻（概形2）
3	上顎中切歯の彫刻（仕上げ）
4	上顎臼歯の形態復習、上顎第一大臼歯の彫刻（概形1）
5	上顎第一大臼歯の彫刻（概形2）
6	上顎第一大臼歯の彫刻（仕上げ）
7	下顎臼歯の形態復習、下顎第一大臼歯の彫刻（概形1）
8	下顎第一大臼歯の彫刻（概形2）　（仕上げは宿題）

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版）
使用機器等	石膏刀，エバンス刀，石膏棒（20mm×20mm），メモリ付き定規
成績評価の方法	３本の提出作品の合計で評価する（100%）
備考	国立大学歯学部人体構造解剖学分野の教授として研究・教育を行うとともに、歯科医師として実務経験も豊富である。

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
生理学・口腔生理学	三浦　裕仁	１年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	生理学の基礎を学び，生体が持つ様々な機能の背景にあるメカニズムを科学的にとらえる姿勢を身につける。

講義回数	講義内容	
1	細　胞	細胞の基本構造、細胞内小器官、細胞膜と物質輸送
2	神　経	神経細胞の構造と膜電位、興奮の伝導と伝達、神経線維の種類と機能、中枢神経の構造と機能
3	筋	筋の種類、筋収縮の仕組み、単収縮、加重、強縮
4	感　覚	感覚の分類、体性感覚(痛覚・温度感覚・触圧覚・深部感覚)、特殊感覚(視覚・聴覚・平衡感覚・嗅覚・味覚)
5	血　液	体液区分、血液の役割、血漿と血球、止血、血液型
6	循　環	血液循環、血管の種類と機能、心臓の自動能と刺激伝達系、心電図、心拍出量の調節
7	呼　吸	換気の仕組み、排気量の区分、酸素と二酸化炭素の運搬、ヘモグロビンの酸素解離曲線、呼吸の調節
8	消化と吸収	消化管の構成と役割、消化酵素の作用、消化管ホルモンの作用、胃液分泌の調節
9	内分泌・生殖	内分泌腺とホルモンの種類、サイロキシン、カルシトニン、パラソルモン、活性型ビタミンD3、血漿カルシウム濃度の調整
１０		下垂体ホルモン、副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン、インスリン、グルカゴン、血糖値の調節
１１	排泄・体温調節	排便、排尿、発汗、腎機能、体温調節、熱の産生と拡散
１２	歯と歯周組織の生理	歯と歯周組織の構成と機能
	歯と口腔の感覚	象牙質・歯髄・歯根膜の感覚、動水力学説、味覚の役割、口腔感覚の神経支配
１３	咬合と咀嚼	咬合、下顎位、咀嚼筋と下顎運動、顎反射、咀嚼運動、咀嚼能力の評価
	吸啜・嚥下・嘔吐	吸啜反射、嚥下運動、咀嚼・嚥下５期、嚥下３期(口腔期・咽頭期・食道期)、嘔吐
１４	唾　液	唾液腺、唾液分泌機構、唾液分泌の神経機序、唾液の成分と機能
１５	発　声	発声の仕組み(声道・声帯・構音/調音)
	終講試験	国家試験形式の問題(各講義で配布する問題から出題する)

履修上の要件	出席時数が2/3以上満たし、下記「成績評価の方法」で100点満点中60点以上を取得すること
教科書等	配布プリントを中心に学習を進める。学習項目は必ず、教科書：歯科衛生学シリーズ　人体の構造と機能1 「 解剖学・組織発生学・生理学 」、歯・口腔の構造と機能　「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 」（医歯薬出版）で確認して理解を深めてほしい。
使用機器等	実物投影機
成績評価の方法	終講試験(選択問題)100%、問題はほぼすべて配布プリントから出題する
備考	

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
歯・口腔の生化学	大西　智和	１年次	４５時間 ２単位	講義

到達目標	生命活動を化学的事象として理解し、歯科診療の対象となる疾患に至る前の正常な状態を細胞及び分子レベルで理解する。

講義回数	講義内容
１	生化学を学ぶ意義　細胞内小器官とその役割
２	水の性質とpH緩衝作用
３	生体の構成成分と栄養素　糖質と脂質の構造と種類
４	生体の構成成分と栄養素　タンパク質の構造と役割
５	第1回中間テスト　消化吸収とＡＴＰ産生のための体内呼吸
６	主要なエネルギー基質　糖質の代謝と電子伝達系によるエネルギーの生成
７	主要なエネルギー基質　脂質の合成とβ酸化
８	代謝におけるビタミンの機能
９	タンパク質分解とアミノ酸代謝
１０	セントラルドグマとタンパク質合成
１１	生体内の恒常性維持とホルモンの作用　栄養素の代謝経路のまとめ
１２	第2回中間テスト　結合組織としての口腔内組織の構成成分
１３	硬組織としての歯および歯周組織の無機成分と有機成分
１４	血液内のカルシウム濃度調節と骨組織の生成と吸収
１５	歯の脱灰と再石灰化
１６	硬組織の生化学のまとめ
１７	第3回中間テスト　唾液の役割
１８	唾液の無機成分と有機成分
１９	プラーク形成とう蝕発生機構　口臭発症機構
２０	う蝕発症機構と歯周組織における免疫機構
２１	歯周炎と免疫機構
２２	第4回中間テスト　歯と口の生化学まとめ
２３	終講試験　（第1回から第4回までの中間テストの内容を含む）

履修上の要件	出席時数が2/3以上を満たし、下記『成績評価の方法』で100点満点中60点以上を取得すること。
教科書等	歯科衛生学シリーズ　「人体の構造2　栄養と代謝」を使用し、講義の範囲は『Ⅰ編　生命活動の概要及び　Ⅱ編歯と口の生化学』とする。
使用機器等	黒板及び液晶プロジェクターを使用する。
成績評価の方法	4回の中間試験30%、レポート10%、終講試験60%
備考	指定した教科書の他、化学や組織学の教科書も使用する。中間テスト前にプリントを配布し重要事項についての自主学習を促すが、講義中にも解説を行う。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
栄 養 学	河井　マサ子	１年次	４５時間 ２単位	講義

到達目標	健康な生活の基本としての栄養学の基礎知識を学び，う蝕，歯周疾患と食生活との関連性を理解し,歯科衛生士として口腔ケアと食生活の適切な指導助言が出来るようになる。

講義回数	講　義　内　容
１	栄養学を学ぶ意義をわかる。栄養摂取状況シートで自己の摂取状況を把握する。
２	細胞の役割。食物成分が栄養成分、血液成分に変化することをわかり、体組織の再構築を理解する。
３	生体構成成分と栄養素、産生されるエネルギーと栄養素をわかる。
４	食品から摂取している糖質の化学的意味がわかり、生体での役割を理解する。
５	食品から摂取しているタンパク質の化学的意味がわかり、生体での役割を理解する。
６	食品から摂取している脂質の化学的意味がわかり、近年の分類を理解する。
７	分類された脂質がそれぞれが生体内で、どのような役割をはたすのかを理解する。
８	ビタミンの分類をわかり、それぞれが生体内で、どのような役割をはたすのかを理解する。
９	多種多様なミネラルの生体内での役割と相互の望ましい摂取割合を理解する。
１０	食品から摂取している食物繊維の分類と生体内での役割を理解する。水分と生体の関係性をわかる。
１１	生体（特に口腔）と五大栄養素・水との関係性のまとめテスト。
１２	食物成分の消化・吸収・代謝の概念を学ぶ。
１３	各栄養素の人体での消化機序を学ぶ。
１４	各栄養素の人体での吸収機序を学ぶ。
１５	食事摂取基準を基にしたエネルギー必要量算出方法と各栄養素のエネルギー配分をわかる。
１６	食事摂取基準の概念を理解し、各種指標をわかり栄養指導に活用する。
１７	国民健康・栄養調査を基にして、現在の日本人の栄養状態や問題点を把握する。（糖尿病など）
１８	国民栄養の課題をわかり、望ましい状況の制度、指標を提示できる。
１９	望ましい食生活に関する施策を学び、食事計画に活かす。
２０	成長期、妊娠期における栄養の特性を理解する。
２１	成人期、高齢期における栄養の特性を理解する。
２２	食品の分類、成分、安全性などを食事作りの観点から学ぶ。
２３	終講試験

履 修 上 の 要 件	
教　科　書　等	歯科衛生学シリーズ：栄養と代謝（医歯薬出版）
使　用　機　器　等	液晶プロジェクター・パソコン
成 績 評 価 の 方 法	終講試験（筆記試験）、コメント、レポートによる総合評価とする。 筆記試験(70%) 課題提出(20%) 受講態度(10%)
備　　考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
病理学・口腔病理学	赤坂　恵理	１年次	４５時間 ２単位	講義

到達目標	病気の原因について，形態的に究明し，疾病についての理解を深める。

講義回数	講　義　内　容
１	病理学とは　①疾病の多様性と共通性②疾病の病態③疾病の経過と転帰
２	病因論１　内因（素因と体質・内分泌異常・免疫応答異常）
３	病因論２　外因（病理的因子・化学的因子・生物因子・栄養障害）
４	遺伝性疾患ならびに奇形　遺伝とは　遺伝性疾患　奇形
５	循環障害とは　循環障害の種類
６	代謝障害　細胞障害　変性と物質代謝障害
７	増殖と修復１　肥大と増生　化生
８	増殖と修復２　再生と修復　創傷治癒　異物処理
９	炎症の原因・経過・転帰
１０	炎症の分類・炎症の臨床症状・感染症
１１	免疫応答異常　免疫応答のメカニズム　アレルギー
１２	腫瘍の発生機序と原因
１３	腫瘍の種類と性質　腫瘍の診断（画像・内視鏡診断・細胞診・生検）
１４	まとめ①
１５	口腔病理学とは　歯の発育異常（大きさ・歯数・形・構造・萌出・時期・位置）
１６	歯の物理的損傷　化学的損傷　歯の付着物及び沈着物
１７	う蝕の疫学と病因　発生機序　分類　組織学的変化
１８	象牙質・歯髄複合体の病態　歯髄炎　象牙質の増生
１９	歯周組織の病態　口腔粘膜の病変
２０	口腔領域の嚢胞と腫瘍　口腔領域の嚢胞　歯原性腫瘍・非歯原性腫瘍
２１	口腔癌　顎骨の病変　唾液腺の病変
２２	口腔領域の奇形　口腔組織の加齢変化
２３	まとめ②・終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ：病理学・口腔病理学　（医歯薬出版）
使用機器等	パソコン・液晶プロジェクター
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）100％
備考	

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
薬理学・口腔薬理学	富田　和男	１年次	４５時間 ２単位	講義

到達目標	歯科で使用する薬物を中心に、薬物が生体へどのように作用しどのような治療効果を与えているかについて、その基本的な性質を理解することを目的として、薬物の作用メカニズムを通じて、生体機能の理解を深め、医療人としての基本的な素養を身につける。

講義回数	講義内容
１	薬とは何か？ 歴史、薬の名前、剤形など
２	薬理作用の様式と容量ー反応曲線、薬物動態
３	薬物の適用方法、薬物の作用に影響を与える因子
４	薬物の副作用、薬物の開発
５	服薬指導について
６	脳の基本構造と中枢神経系に作用する薬物の特徴
７	中枢神経作用薬-向精神薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン薬など
８	末梢神経の構造と機能、自律神経作用薬、筋弛緩薬など
９	局所麻酔薬の作用機序とその副作用
１０	循環器系に作用する薬-高血圧、不整脈、心不全、狭心症薬など
１１	血液と薬-止血薬、抗血栓薬、血液凝固因子について
１２	腎臓、消化器系に作用する薬-利尿薬、消化性潰瘍治療薬など
１３	炎症の5大兆候とステロイド性抗炎症薬、アラキドン酸カスケード
１４	非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)と解熱・鎮痛薬
１５	ビタミン・ホルモンと薬
１６	抗感染症薬の種類とその作用機序
１７	主な消毒薬とその作用機序
１８	悪性腫瘍と薬
１９	免疫と薬、漢方医学と薬
２０	う蝕予防薬と歯内療法薬
２１	代謝性疾患治療薬-糖尿病と骨粗鬆症薬について
２２	歯周疾患、顎口腔粘膜疾患と薬
２３	まとめ・終講試験

履修上の要件	高等学校課程で生物学を履修していることが望ましいが、履修していない場合は、本授業後の復習をしっかり行うことが必須となります。
教科書等	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進３　薬理学」（医歯薬出版）
使用機器等	ＰＣ，液晶プロジェクター
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）80%、授業態度20%
備考	授業後にその日に行った項目を一度読むことが必要です。練習問題を行うこともありますが、解答に必要な知識は、教科書に記載されています。分からない事があればどんなことでも遠慮なく質問して、理解を深めてください。

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
微生物学・口腔微生物学		１年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	微生物特に歯科関連細菌、真菌、ウイルスおよび生体防御機構に関する知識を習得し、口腔感染症、感染対策等が理解できる。

講義回数	講義内容
1	疾病と微生物、免疫学、感染症概説
2	微生物の分類、細菌の性質
3	主な病原性細菌１（グラム陽性球菌・グラム陽性桿菌・グラム陰性球菌・グラム陰性桿菌）
4	主な病原性細菌２（ヘリコバクター属・マイコプラズマ属・スピロヘータ・リケッチア・クラミジア）
5	ウイルスの性質　歯科関連ウイルス感染症１（ヘルペスウイルス・ピコルナウイルス・パラミクソウイルス・風疹ウイルス）
6	歯科関連ウイルス感染症２（インフルエンザウイルス・レトロウイルス・肝炎ウイルス） 真菌の性質と歯科関連真菌感染症　原虫の性質と歯科関連原虫感染症
7	宿主防御機構と免疫１（非特異的防御機構と特異的防御、免疫担当臓器と担当細胞、免疫機構の発現と調節、ワクチン）
8	宿主防御機構と免疫２（液性免疫と細胞性免疫、アレルギー）
9	口腔微生物学１（口腔細菌叢、デンタルプラークの形成機序）
１０	口腔微生物学２（デンチャープラーク、歯石の形成、バイオフィルム感染症） 口腔感染症１（う蝕、歯内感染症）
１１	口腔感染症２（歯周病、唾液腺感染症、顎骨骨髄炎、口腔カンジダ症 小児のウイルス感染症、誤嚥性肺炎、口腔細菌と感染性心内膜炎
１２	化学療法（化学療法薬総論、化学療法薬の分類、薬剤耐性、有害作用）
１３	院内感染対策（歯科臨床における院内感染対策、標準予防策） 滅菌消毒（滅菌・消毒の定義、滅菌法、消毒法）
１４	細菌培養（培養法、培地） 顕微鏡観察（顕微鏡の種類、グラム染色法）
１５	まとめ・終講試験

履修上の要件	
教科書	歯科衛生学シリーズ：微生物学（医歯薬出版）、配布プリント
使用機器等	パソコン・液晶プロジェクター・ビデオ
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）100%
備考	

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
保健生態学Ⅰ	薬師寺　毅	1年次	５０時間 ２単位	講義

到達目標	う蝕と歯周病の予防に関する基礎知識を学習・理解することにより実地応用するための基本を身につけることができる。 う蝕と歯周病以外の口腔の疾病を予防するための基礎と公衆歯科衛生活動を理解することにより，実地応用するための基本を身につけることができる。

講義回数	講義内容	
1	イントロ、シラバス、歯・口腔の健康と予防、歯・口腔の構造	イントロ（保健生態学Ⅰの範囲、歯科衛生士としての心構え、勉強方法など）、シラバスの説明、歯・口腔の健康・予防・構造の概説
2	歯・口腔の発生と成長・発育、歯・口腔の機能	歯・口腔の健康・予防を理解するために必要な歯・口腔の発生と　成長・発育、および歯・口腔の機能（はたらき）
3	口腔の健康と全身の健康	口腔と全身との関係
4	歯・口腔の付着物・沈着物	ペリクル（獲得被膜）、プラーク（歯垢）、マテリアアルバ（白質）
5		歯石、舌苔、外来性色素沈着物
6	口腔清掃（歯口清掃）	意義、口腔清掃法、人工的清掃法の分類と用具、為害作用、歯磨剤
7	歯科疾患の疫学	う蝕、歯周病、その他の疾患の疫学
8	う蝕発生のメカニズム	プラーク構成細菌、酸、脱灰、再石灰化、動物実験
9	う蝕の発生要因	Newbrunnの輪（宿主・歯、細菌、糖質、時間）
１０		ミュータンスによるう蝕発症、疫学データ、ステファンカーブ
１１	う蝕活動性、ＥＢＭ	う蝕活動性（試験）の総論・各論、ＥＢＭ（根拠に基づいた医療）
１２	う蝕の予防法	う蝕の一次予防、二次予防、三次予防
１３		う蝕の発生要因（Newbrunの輪）に対する予防法
１４		う蝕と歯周病のホームケアとプロフェッショナルケアのまとめ
１５	フッ化物によるう蝕予防	一般的知識（歴史、性状、代謝など）、毒性（急性、慢性）
１６		フッ化物の応用（全身、局所）、予防のメカニズム
１７		定期健診の重要性、初発予防・重症化予防・再発予防
１８	中間試験	マークシート方式　（出題は講義の範囲、過去の国試問題）
１９	歯周疾患の予防	歯周疾患の症状と分類
２０		歯周疾患の発症機序、歯周疾患と全身との関係
２１		歯周疾患の一次予防、二次予防、三次予防
２２	う蝕、歯周病以外の疾患の予防（ビデオ学習）	口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症、口臭症、口腔乾燥症など
２３	実力試験	マークシート方式　（出題は講義の範囲、過去の国試問題）
２４	インタビューテクニック	コミュニケーションの基礎
２５	歯科医療をとりまく情勢、終講試験	わが国の医療制度、歯科医療の現状と将来、 マークシート方式（出題は講義の範囲、実力・中間試験問題を含む）

履修上の要件	出席時数が2/3以上を満たし、下記「成績評価の方法」で100点満点中60点以上を取得すること。
教科書等	「歯科衛生学シリーズ・保健生態学」を使用し、講義の範囲は「Ⅱ編　歯・口腔の健康と予防」とする。
使用機器等	液晶プロジェクター、ビデオ・ＤＶＤ、模型、インターネットなどを使用する。 なお,黒板はほとんど使用しない。
成績評価の方法	中間試験と実力試験が計５０点、終講試験が４０点、平常点（出席、レポート、授業中の態度）１０点の計１００点満点で評価する。
備考	実力試験、中間試験、ビデオ学習は講義の進行状況に応じて、日程、回数を変更することがある。教科書と配布プリントを忘れずに持参すること。 (実務経験) 歯科医師として大学病院勤務後、開業し地域医療の実務経験をもとに知識を講義する。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
保健生態学Ⅱ	石橋　貴樹・薬師寺　毅	２年次	５０時間 ２単位	講義

到達目標	人間の健康問題と人間社会を取り巻く環境因子との関係を教授することで，医療・保健・福祉の実情が理解できる。

講義回数	講　義　内　容
1	歯科衛生士と関係の深い法律・歯科衛生士法の成り立ち
2	歯科衛生士の定義と業務、免許・歯科衛生士名簿、登録免許の交付及び届け出
3	歯科医師法・歯科技工士法、歯科口腔保健法の推進に関する法律
4	医療法
5	医療関係職種　主に歯科医療と関わる医療関係者
6	その他の関係法規（薬事、地域保健法、健康増進法、母子保健法、食品衛生法等）
7	保健生態学総論
8	疫学・疫学の方法
9	人口　人口動態調査　生命表
１０	健康と環境（空気、水、放射線、住居、地球環境変化、公害問題、廃棄物処理）
１１	感染症
１２	食品と健康
１３	中間試験
１４	ライフステージごとの口腔保健管理
１５	地域保健・公衆衛生Ⅰ：地域社会と地域保健の概念
１６	地域保健・公衆衛生Ⅱ：健康づくり対策と地域歯科保健
１７	母子保健
１８	学校保健
１９	成人保健
２０	産業保健
２１	老人保健
２２	精神保健
２３	国際保健
２４	国家試験過去問題解説
２５	終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ　：　保健生態学（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ　：　保健・医療・福祉の制度（医歯薬出版）
使用機器等	
成績評価	中間試験（筆記試験）　50%　　終講試験（筆記試験）50%
備考	（実務経験） 地域医療の専門家として臨床経験を活かし講義する。

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
保健情報統計学	藤島　慶	２年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	疫学研究，統計処理の知識を身につけ，歯科関連の問題把握，解決を図る手法を理解する。 歯科疾患の疫学的特性を理解する。

講義回数	講義内容
1	疫学概論
2	健康関連事象
3	う蝕の指数化１（う蝕の特徴・う蝕の診断基準）
4	う蝕の指数化２（WHOの診断基準・う蝕の表現方法）
5	歯周疾患の指数化
6	口腔清掃の指数化
7	口腔状態の評価１（不正咬合と歯列不正の指数・歯のフッ素症指数）
8	口腔状態の評価２（その他の歯科保健指標）
9	歯科疾患の疫学的特性１（保健情報の収集）
１０	歯科疾患の疫学的特性２（調査・母集団と標本抽出）
１１	疫学調査の方法
１２	スクリーニング
１３	基礎統計量
１４	統計・検定の実際
１５	まとめ・終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ　：　保健情報統計学 保健生態学 保健・医療・福祉の制度（医歯薬出版）
使用機器等	液晶プロジェクター・パソコン
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）100％
備考	(実務経験)大学病院で歯科医師としての臨床経験を活かし講義する。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
社会保険・社会保障・社会福祉	笹峯　万起子	２年次	１５時間 １単位	講義

到達目標	社会保障の制度や法規、社会福祉・社会保険の役割等を理解する。

講義回数	講　義　内　容
1	Ⅰ．社会保障について（意義，目的） Ⅱ．社会保険の概要（５つ公的保険）
2	Ⅲ．医療保険について
3	Ⅳ．介護保険について①（老人保健、医療・福祉対策の経緯） 介護保険について②（保険者と被保険者・要介護認定・保険給付）
4	Ⅳ．介護保険について③（新しい介護予防事業・地域包括支援センター） Ⅴ．年金保険について
5	Ⅵ．雇用保険、労災保険、公衆衛生、民生委員
6	Ⅶ．社会福祉①（社会福祉行政・生活保護）
7	Ⅶ．社会福祉②（児童と家庭の福祉制度・障害者の福祉制度と法律・老人福祉法）
8	まとめ・終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ：保健・医療・福祉の制度（医歯薬出版）
使用機器等	パソコン，液晶プロジェクター，スピーカー
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）100％
備考	毎回別にプリント配布

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
看護学		２年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	看護についての主要概念をとらえ、看護の位置づけ、専門性を理解する。 総合保健医療のなかで歯科衛生士の役割を理解する。

講義回数	講義内容
1	病院における歯科衛生士の役割
2	医療チームの中の歯科衛生士
3	看護の歴史・目標・役割
4	歯科衛生士が知っておくべき看護技術
5	バイタルサインについて
6	患者への支援
7	患者の安全と安楽
8	看護技術　与薬
9	介護技術　罨法吸引
１０	入院を要する患者の看護
１１	看護技術・血圧測定
１２	口腔ケア・救急時の看護
１３	感染対策
１４	地域医療活動における歯科衛生士の役割
１５	まとめ・終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生士のための看護学大意（医歯薬出版）
使用機器等	ビデオ、パソコン、液晶プロジェクター
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）100％
備考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業内容
歯科衛生学総論	飯野　和男	１年次	２０時間 １単位	講義

到達目標	健康志向の高まりや食育の重要性が叫ばれるなか担っていく歯科衛生士の資質や患者のニーズの多様化への対応が理解できる。

講義回数	講　義　内　容
1	歯科衛生学：ライフステージ、健康との関わり、活動の対象、領域
2	歯科衛生士の歴史：歯科予防処置、歯科衛生業務の発展
3	歯科衛生活動のための理論：第１次・第２次・第３次予防、ＩＣＦ、ＥＢＭ
4	歯科衛生過程：歯科衛生アセスメント、歯科衛生診断、歯科衛生計画、介入、評価
5	歯科衛生士法と歯科衛生業務：予防処置、診療補助、保健指導
6	歯科衛生士の役割：求められる技能、関連法規、安全管理、リスクマネジメント
7	歯科衛生士と医療倫理：医の倫理と患者の権利、対象の自己決定権、インフォームドコンセント
8	歯科衛生士の活動と組織
9	歯科衛生士ととりまく情勢・まとめ
１０	終講試験

履修上の要件	出席時数の2/3以上を満たし、終講試験100点満点中60点以上を取得する。
教科書等	歯科衛生学総論（医歯薬出版）、資料をコピーして配布
使用機器等	
成績評価の方法	終講試験60%、授業中の態度40%
備考	教科書と配布プリントを忘れずに持参すること。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科臨床概論	飯野　和男	１年次	２０時間 １単位	講義

到達目標	専門科目授業の意義を理解し、認識と関心を高める。 歯科疾患の概要と歯科衛生士の役割を説明できる。

講義回数	講　義　内　容
1	歯科診療とは：歯科臨床の場と関わる人々、歯科診療所における安全管理
2	歯科診療所における業務
3	ライフステージと歯科診療：バイタルサインの確認、画像検査、歯周組織検査
4	小児歯科の概要：小児期の歯科疾患、先天異常への対応、う蝕予防処置、フッ化物歯面塗布
5	歯科矯正の概要：不正咬合の特徴と主な治療法、検査
6	口腔外科の概要：診療の流れ、腫瘍、粘膜疾患、外傷、止血
7	歯科保存の概要：保存修復、歯内療法、象牙質知覚過敏症、ホワイトニング
8	歯周治療の概要：歯周治療の流れ、歯周病と全身疾患、歯周基本治療、歯科衛生介入
9	歯科補綴の概要：歯冠補綴、欠損補綴、義歯の作成、Ｂｒ、Ｃｒ
１０	障害者・高齢者歯科：周術期の対応、歯科訪問診療 終講試験

履修上の要件	授業に集中し授業後は配布プリント、教科書に基づいて復習すること。 原則として、毎回出席すること。
教科書等	歯科衛生士のための歯科臨床概論（医歯薬出版）、配布プリント
使用機器等	
成績評価の方法	終講試験60%、授業中の態度40%
備考	配布プリントは３年次国試まで保管し、毎回持参すること。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
保存修復学	伊地知　博史	２年次	３５時間 ２単位	講義

到達目標	保存修復の目的を理解し，処置方針を把握したうえで処置ステップの流れが円滑に進行するように介助し，また患者に十分説明できるようになる。

講義回数	講　義　内　容
1	歯の保存療法の種類（歯の保存療法と歯科保存学・対象となる疾患）
2	口腔検査（口腔検査の基礎知識と前準備・医療面接・現症の検査）
3	保存修復の概要１（保存修復学とは）
4	保存修復の概要２　窩洞と保存修復治療（窩洞の構成）
5	保存修復の概要３　窩洞と保存修復治療（窩洞の分類）
6	保存修復の概要４（保存修復治療の概要・保存修復治療の準備）
7	保存修復の概要５（歯の切削、窩洞形成・歯髄の保護・保存修復法の種類）
8	直接法修復１　コンポジットレジン修復（組成・種類、歯質接着の基礎）
9	直接法修復２　コンポジットレジン修復（必要な器材、光重合型の特徴・手順）
１０	直接法修復３　セメント修復（歯科用セメントの種類と用途）
１１	直接法修復４　セメント修復（グラスアイオノマーセメント修復、その他のセメント修復）
１２	間接法修復１（インレーおよびアンレー修復）
１３	間接法修復２（ベニア修復）
１４	間接法修復３（合着材および接着材）
１５	保存修復における歯科衛生士の役割１（検査・診断時の業務）
１６	保存修復における歯科衛生士の役割２（保存修復時の診療補助業務）
１７	保存修復における歯科衛生士の役割３（器材、薬剤の保管・管理）
１８	終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ ： 保存修復学・歯内療法学（医歯薬出版）
使用機器等	ノートパソコン、液晶プロジェクター
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）100％
備考	（実務経験） 地域医療の専門家としての歯科医師の臨床経験を活かし講義する。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯内療法学	上稲葉　隆	２年次	３５時間 ２単位	講義

到達目標	歯の痛みの種類・メカニズムを理解し，その予防法，治療法を十分に習熟する。

講義回数	講　義　内　容
1	歯内療法の概要　歯内療法学とは
2	歯内療法領域の疾患の概要と原因　歯の痛み
3	歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の分類・症状・診断
4	歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の処置方針
5	患者の症状に対する理解　有病者・高齢者の歯内療法
6	処置内容に対する理解　歯内療法特有の検査・診断
7	歯内療法における歯科衛生士の役割・治療後の患者管理
8	歯髄保存療法　歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬
9	歯髄保存療法　覆髄法
１０	歯髄の除去療法　歯髄切断法
１１	歯髄の除去療法　抜髄法
１２	根管治療の基本概念
１３	根管治療の術式
１４	根管充填　根未完成歯の根管処置
１５	外科的歯内療法　膿瘍切開/根尖切除法/歯根切断法/歯根分離法他
１６	歯内療法における安全対策　偶発症について
１７	総まとめ
１８	終講試験・解答解説

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ ： 保存修復学・歯内療法学（医歯薬出版）
使用機器等	
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）100％
備考	（実務経験） 地域医療の専門家としての歯科医師の臨床経験を活かし講義する。

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
歯周病学	野口　和行	２年次	４０時間 ２単位	講義

到達目標	1.歯周組織の構造および歯周病の病態を説明できる。 2.歯周病の病因および分類を説明できる。 3.歯周病と全身との関係を説明できる、 4.歯周病の検査、歯周基本治療および歯周外科治療を説明できる。 5.歯周治療のメインテナンスおよびサポーティブペリオドンタルセラピーを説明できる

講義回数	講義内容
1	歯肉、歯根膜、セメント質、歯槽骨の構造と機能、歯周組織に影響を与える歯の形態異常
2	歯周病の病態：歯周病の症状、歯肉形態異常、ポケット形成、アタッチメントロス 歯槽骨の吸収と形態
3	歯周病の分類：歯肉炎、非プラーク性歯肉病変、歯肉増殖症、歯周炎、壊死性歯周疾患等
4	歯周病の病因：細菌因子の関わり（プラーク、プラークリテンションファクター、歯石）
5	歯周病の病因：宿主因子と環境因子の関わり（生体防御機構と組織破壊、喫煙、ストレス、 栄養等）
6	歯周病検査：歯周ポケット、歯の動揺度、付着歯肉幅、歯肉出血、食片圧入、プラーク付着等
7	歯周病の疫学：プラーク付着の指数、歯肉炎症の指数、歯周疾患の指数
8	歯周病と全身疾患：全身への影響のメカニズム、糖尿病、心臓血管疾患、早産・低出生体重等
9	歯周治療計画の考え方・歯周基本治療（プラークコントロール、動機付け）
１０	歯周基本治療（ブラッシング法、歯間部清掃法、プラークコントロールの効果、電動歯ブラシ）
１１	歯周基本治療（スケーリング・ルートプレーニングの意義、効果）
１２	歯周基本治療(手用およびパワードリブンスケーラーによるスケーリング・ルートプレーニング)
１３	歯周基本治療（咬合性外傷、咬合調整、暫間固定、口呼吸・舌習癖・食片圧入）
１４	再評価、薬物療法（化学的プラークコントロール、うがい薬・含嗽剤、抗菌剤、 局所薬物配送システム）
１５	歯周外科処置総論：歯周外科の目的・種類、歯肉の切開・剥離、歯周外科手術器具、 縫合、歯周パック
１６	歯周外科処置：歯周ポケット掻爬、歯肉切除術、ENAP、歯肉剥離掻爬術の適応と術式
１７	歯周外科処置：歯周組織再生誘導法、エナメルマトリックスタンパク質、 歯周形成手術の適応と術式
１８	特殊な歯周病：歯周・歯内病変、遺伝性疾患に関連する歯周病 （パピヨン・ルフェーブル症候群など）
１９	口腔機能回復処置、メインテナンス・サポーティブペリオドンタルセラピー
２０	歯科用レーザー、終講試験・解説

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ ： 歯周病学（医歯薬出版） 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）
使用機器等	液晶プロジェクター・パソコン
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）100%
備考	（実務経験） 大学病院での歯科医師としての臨床経験を活かし講義する。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科補綴学	門川　明彦	２年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	歯科補綴治療に対する基本的な知識を習得する。 歯科補綴臨床において歯科衛生士に求められる知識・技術を発揮できる。

講義回数	講　義　内　容
1	歯科補綴治療の意義，目的
2	天然歯列の形態と位置的関係
3	顎口腔系の機能，下顎運動
4	歯の欠損に伴う変化，障害
5	クラウンの分類
6	クラウンの臨床ステップの概説
7	ブリッジの構成と材料
8	ブリッジの臨床ステップの概説
9	部分床義歯の分類，構成
１０	部分床義歯の臨床ステップの概説
１１	全部床義歯の分類，構成
１２	全部床義歯の臨床ステップの概説
１３	補綴治療に用いられる器材と管理
１４	特別な名称をもつ義歯，補綴装置の補修
１５	終講試験・解答解説

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ ： 歯科補綴学（医歯薬出版）
使用機器等	液晶プロジェクター・パソコン
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）100％
備考	（実務経験） 大学病院の歯科医師としての臨床経験を活かし講義する。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科矯正学	飯野　祥一朗	２年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	歯科矯正学の基礎を習得し，歯科矯正における歯科衛生士の役割を理解する。

講義回数	講　義　内　容
1	歯科矯正学概論
2	成長・発育
3	咬　合
4	不正咬合の原因
5	矯正治療の生物力学ー矯正力と歯の移動
6	矯正診断学に関する知識　Ⅰ
7	矯正診断学に関する知識　Ⅱ
8	矯正治療に使用する器材とその取り扱い方
9	矯正装置
１０	歯科矯正治療の実際　Ⅰ
１１	歯科矯正治療の実際　Ⅱ
１２	歯科矯正における歯科衛生士の役割：矯正装置の取り扱い等
１３	歯科矯正における歯科衛生士の役割：口腔保健管理と口腔筋機能訓練の実際　等
１４	歯科矯正学のまとめ
１５	終講試験・解説

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ　：　歯科矯正学（医歯薬出版）
使用機器等	各種歯科矯正学教育機器
成績評価の方法	学習態度 10%，終講試験（筆記試験）　90%
備考	（実務経験） 歯科矯正の専門歯科医院を開業されている実績を活かし講義する。

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
口腔外科学	芹澤　慎生	２年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	口腔外科に関する知識および診療介助の実技を習得する。

講義回数	講義内容
1	口腔外科と歯科衛生士の関わりについて 顎口腔領域の構造と機能について概説し口腔外科診療の内容を説明する
2	口腔病変と全身疾患 主な全身疾患と口腔外科診療との関わりを説明する
3	口腔領域の先天異常，変形 口腔領域の硬軟組織の先天異常、発育異常について説明する
4	口腔領域の損傷 口腔粘膜ならびに歯・歯槽骨、顎骨の損傷について説明する
5	口腔粘膜疾患①　口腔粘膜の病的所見ごとに粘膜疾患を説明する
6	口腔粘膜疾患②　口腔乾燥、血液疾患に伴う粘膜病態について説明する 口腔領域の炎症　細菌感染による炎症性疾患について説明する
7	口腔領域の炎症 細菌感染による炎症性疾患について説明する
8	口腔領域の嚢胞 口腔領域に生じる嚢胞について、その種類、病態、治療法について説明する
9	中間試験
１０	口腔領域の腫瘍 口腔領域に生じる腫瘍について、その種類、病態、治療法について説明する
１１	唾液腺疾患 唾液腺の種類とその働きならびに唾液腺に生じる疾患について説明する
１２	口腔領域の神経疾患 三叉神経、顔面神経の神経障害について説明する
１３	口腔外科診療の実際と衛生士のかかわり① 口腔外科診療の基本的事項について説明する
１４	口腔外科診療の実際と衛生士のかかわり② 口腔外科抜歯術および小手術について、その内容と必要な器具ならびに歯科衛生士としての関わり方について説明する
１５	終講試験

履修上の要件	出席時数が2/3以上を満たし、下記「成績評価の方法」で100点満点中60点以上を取得する
教科書等	歯科衛生学シリーズ：口腔外科学・歯科麻酔学（医歯薬出版）
使用機器等	パソコン・液晶プロジェクターを用いて講義を行う
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）100％にて100点満点で評価する
備考	講義の進行状況によって日程、回数を変更することがある。教科書と講義中配布するプリントを絶えず音読し、理解に努めること

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科麻酔学		２年次	１５時間 １単位	講義

到達目標	歯科領域における局所麻酔・全身麻酔および全身管理に関する知識を習得する。

講義回数	講　義　内　容
1	歯科麻酔と歯科衛生士
2	救急薬品，患者の合併疾患
3	全身評価，臨床検査
4	ストレスに対する生体の反応
5	バイタルサイン，精神鎮静法
6	局所麻酔薬，局所麻酔法
7	全身麻酔薬，全身麻酔法
8	まとめ・終講試験

履修上の要件	生理学，解剖学などの基礎的知識があり，講義の出席した者を履修要件とする。
教科書等	歯科衛生学シリーズ ： 口腔外科学・歯科麻酔学（医歯薬出版）
使用機器等	パソコン・液晶プロジェクター
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）100％
備考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
小児歯科学	坪水　良平	２年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	小児の特徴をとらえた上で、小児歯科を理解する。

講義回数	講　義　内　容
1	小児歯科学概論、心身の発育
2	小児の生理的特徴、顔面頭蓋の発育
3	歯の発育とその異常
4	歯列・咬合の発育と異常
5	小児の歯科疾患
6	小児期の特徴と歯科的問題点
7	小児歯科における診療体系
8	小児歯科における診療体系
9	小児歯科における患者との対応法
１０	障害児の歯科治療
１１	診察・検査時の業務、う蝕予防
１２	小児歯科診療における診療補助
１３	小児の口腔保健管理
１４	歯科診療室と器材の管理
１５	まとめ・終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ： 小児歯科学（医歯薬出版）
使用機器等	
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）70%　小テスト30%
備考	（実務経験） 小児歯科の専門歯科医院を開業されている実績を活かし講義する。

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
高齢者歯科学	長岡　英一	２年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	高齢者を対象にした歯科医療に関わる知識を習得したうえ、地域包括ケアシステムにおけるかかりつけ歯科の役割りと多職種連携のあり方を理解し、生活を支援するナラティブな医療を実践する能力を涵養する。

講義回数	講義内容
1	高齢者と健康（高齢者歯科序章）
2	高齢者の社会保障制度
3	加齢に伴う身体的機能の変化および精神・心理的変化
4	高齢者に多い全身と口腔の疾患
5	高齢者の状態の把握Ⅰ　（生活機能の評価・臨床検査）
6	高齢者の状態の把握Ⅱ　（栄養状態・薬剤服用）
7	高齢者の口腔健康管理（口腔ケア）概説および有病者への対応
8	要介護高齢者への口腔健康管理
9	高齢者のリハビリテーションと摂食・嚥下の評価の概要
１０	誤嚥性肺炎予防のための訓練と通院困難者の摂食・嚥下リハビリテーション
１１	訪問診療と歯科衛生士が関わる公的介護保険の概要
１２	地域包括ケアシステムにおける多職種連携とかかりつけ歯科の役割り
１３	高齢者歯科における歯科衛生過程と訪問の場が異なる事例集
１４	歯科衛生士の介入により生活機能が好転した事例集
１５	まとめ・終講試験

履修上の要件	内容が多岐にわたり、学習量も多いため、予習・復習に心掛け、用語の確実な理解に努めること。
教科書等	歯科衛生学シリーズ ： 高齢者歯科学(医歯薬出版）・老年歯科医学用語辞典（医歯薬出版）
使用機器等	液晶プロジェクター・パソコン・参考資料配布（補助教材）
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）80%　小テスト（筆記試験）20%
備考	（実務経験） 国立大学歯学部教授、また歯科医師として、豊富な臨床実務経験を有している。

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
障害者歯科学	中山　朋子	２年次	１５時間 １単位	講義

到達目標	身体的、知的あるいは精神的障害のある方を対象とする障害者歯科において、その障害の基本的知識を身につけけることで、障害のある方の口腔衛生管理の重要性を学び、歯科衛生士としての役割を理解する。スペシャルニーズのある方を支援する地域医療保健分野で、多職種連携の重要性と歯科衛生士として位置づけを認識する。３年次における障害者施設の実習における心構え等理解する。

講義回数	講義内容
1	障害の概念 歯科医療における特別な配慮と対応を必要とする人たち(スペシャルニーズのある人)に対しての理解と対応、国際的分類・スペシャルニーズのある方のQOLと口腔管理の必要性について
2	障害の種類・障害者歯科の対象者 ①運動や知能・精神に障害のある人 ②医学的管理の必要な人・有病者 ③障害のある高齢者（老年歯科）と、それぞれの対象者の口腔と歯科的特徴と歯科治療・歯科衛生業務における留意点
3	障害者の歯科医療と行動調整 ①障害別のコミュニケーション法 ②行動療法（行動変容法） ③体動のコントロール法と、その効果と危険性 ④薬物的行動調整法（鎮静法・全身麻酔）
4	健康支援と口腔衛生管理 ①対象者の特性に合わせた口腔衛生管理 ②専門的口腔ケア(器質的口腔ケア・機能的口腔ケア) ③専門的口腔ケア実施時の問題点と注意点
5	リスク評価と安全管理 ①障害者歯科におけるリスク評価（発達の評価・身体機能の評価・行動その他の評価） ②障害別のリスクと対応 ③医療安全管理体制 ④感染制御体制
6	摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割
7	地域における障害者歯科 障害者歯科と地域医療連携、障害者歯科と医療福祉関連職種、 保健・医療・福祉のネットワーク 一次・二次・三次医療機関における障害者歯科と歯科衛生士の役割
8	まとめ ①障害のある人のQOLと、歯科衛生士としての口腔健康管理の重要性 ②障害のある人と医療・福祉制度と地域包括支援の中での歯科医療連携の必要性 ③３年次における障害者施設実習について 終講試験

履修上の要件	３年次障害者施設実習に向けての講義でもあるので、必要出席日数と終講試験。
教科書等	歯科衛生学シリーズ ： 障害者歯科学（医歯薬出版）
使用機器等	液晶プロジェクター・パソコン
成績評価の方法	筆記試験（100%）
備考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科衛生学予防処置論Ⅰ	専任	１年次	６０時間 ２単位	講義 演習

到達目標	健康の維持・増進のための歯科予防処置の基礎知識を学び、歯周予防処置法の技術を修得する。

講義回数	講　義　内　容
1	歯科予防処置の概要　（歯科予防処置の定義、予防の概念、法的な位置づけ）
2	口腔の基礎知識　（正常な口腔、歯周組織の構成要素、歯冠と歯根の形態、口腔の機能）
3	口腔内の付着物・沈着物　（プラークの成分と分類、歯石の成分と分類）
4	う蝕の基礎知識　（う蝕の分類と原因）
5	歯周病の基礎知識　（歯肉炎と歯周炎の特徴、歯周病の進行プロセス）
6	ミラーテクニック、エキスプローリング　（種類と特徴、把持法、基本姿勢）
7	口腔内観察１　（口腔観察の目的と検査項目）
8	口腔内観察２　（歯牙、歯周組織）
9	口腔内観察３　（舌、粘膜）
１０	歯周検査法１　（歯周検査法の目的、洗浄・貼薬の目的）
１１	プロービング・マネキン操作　（基本姿勢と把持法）
１２	歯周検査法２　（歯周プローブの基本的操作法、洗浄・貼薬の使用薬剤）
１３	歯周検査法３　（歯の動揺度、ミラーの分類、洗浄・貼薬の実際）
１４	地域歯周疾患指数１　（地域歯周疾患指数の目的と種類）
１５	地域歯周疾患指数２　（CPIプローブの理解）
１６	地域歯周疾患指数３　（CPIのスコア）
１７	口腔内写真１　（口腔内写真の意義）
１８	口腔内写真２　（撮影機材、撮影方法）
１９	口腔内写真３　（口腔内写真撮影の分析）
２０	歯周病、う蝕に関連する検査　（う蝕活動性試験）

２１	スケーラーの種類と使用目的　　（シックルスケーラーの基礎知識）
２２	スケーラーの基本操作　　（咬合面トレーニング・ストレッチ）
２３	シックルスケーラー操作１　　（上顎前歯部　唇側）
２４	シックルスケーラー操作２　　（上顎前歯部　口蓋側）
２５	シックルスケーラー操作３　　（下顎前歯部　唇側）
２６	シックルスケーラー操作４　　（下顎前歯部　舌側）
２７	歯面研磨１　　（歯面研磨の目的、歯面研磨の使用器材、歯面研磨の使用薬剤）
２８	歯面研磨２　　（歯面研磨の操作方法）
２９	歯面研磨３　　（PMTC）
３０	終講試験・解説

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ：歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）
使用機器等	パソコン・プロジェクター・実物投影機
成績評価の方法	終講試験80%、提出物10%、授業態度10%
備考	受講態度：身だしなみ、発問などの積極的参加姿勢、私語など

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科衛生学予防処置論Ⅱ	専任（佐別當 水紬記）	２年次	８０時間 ２単位	講義 演習

到達目標	健康の保持・増進のための歯科予防処置法の知識を理解する。 基本訓練から基本手技を習得し、臨床現場に即した技術・態度を習得する。

講義回数	講　義　内　容
1	フッ化物応用の基礎知識　フッ化物の作用・使用法
2	フッ化物応用効果実験　フッ化物のう蝕予防効果実験
3	フッ化物洗口法　ホームケアで出来るう蝕予防処置法、フッ化物洗口剤の使用法 注意点の理解
4	フッ化物歯面塗布法１　フッ化物歯面塗布の必要性・術式・取り扱い・安全の理解
5	フッ化物歯面塗布法２　相互実習
6	フッ化物歯面塗布法３　相互実習
7	キュレットの基礎知識　（特徴・使用部位・基本操作法）
8	キュレット操作１　基本操作①　（机上訓練）
9	キュレット操作２　基本操作②、（マネキン訓練）
１０	キュレット操作３　上顎前歯　マネキン実習
１１	キュレット操作４　下顎前歯　マネキン実習
１２	キュレット操作５　左下臼歯部　マネキン実習
１３	キュレット操作６　右下臼歯部　マネキン実習
１４	キュレット操作７　左上臼歯部　マネキン実習
１５	キュレット操作８　右上臼歯部　マネキン実習
１６	キュレット操作９　総合トレーニング　マネキン実習
１７	キュレット操作１０　総合トレーニング　マネキン実習
１８	キュレット操作１１　実技試験　マネキン実習
１９	小窩裂溝塡塞法１　特徴・術式の理解
２０	小窩裂溝塡塞法２　相互実習

２１	小窩裂溝塡塞法３　相互実習
２２	シャープニング１　原則および目的の理解
２３	シャープニング２　セミナー
２４	シャープニング３　セミナー
２５	業務記録１　歯科衛生士業務の記録とは
２６	業務記録２　歯科衛生士業務の記録作成
２７	超音波スケーラー操作１　種類・特徴・使用方法の理解
２８	超音波スケーラー操作２　相互実習
２９	超音波スケーラー操作３　相互実習
３０	歯科衛生評価１　プロセスと結果の評価
３１	スケーリング相互実習１　模型・マネキン実習の仕上げとして口腔内でのスケーリング相互実習における実習示説・実習計画の作成
３２	スケーリング相互実習２　相互実習
３３	スケーリング相互実習３　相互実習
３４	スケーリング相互実習４　相互実習
３５	歯科衛生評価２　プロセスと結果の評価
３６	歯面清掃法１　（目的・操作法の理解）
３７	歯面清掃法２　相互実習
３８	臨床における歯科衛生活動　歯周病　歯周病患者に対する歯科予防処置の理解（介入計画）
３９	総まとめ・演習
４０	終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ ： 歯科予防処置論・歯科保健指導論　（医歯薬出版）
使用機器等	パソコン・プロジェクター・配布資料
成績評価の方法	終講試験80%、提出物10%、小テスト10%
備考	

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
歯科衛生学歯科衛生過程	上敷領　清晴	１年次	６０時間 ２単位	講義

到達目標	口腔保健の意義を理解し、対象に応じた口腔内観察と口腔清掃法や予防プログラムの立て方を習得できる。口腔内の状況をみて予防のプログラムが立てられ、う蝕や歯周病の継続管理ができる。

講義回数	講義内容
１	歯科衛生過程の考えかた
２	歯科衛生過程の基礎　歯科衛生過程とは
３	歯科衛生過程の基礎　歯科衛生過程の思考プロセス
４	歯科衛生過程のプロセス１　歯科衛生アセスメント①対象者からの情報収集
５	歯科衛生アセスメント②口腔内の情報収集（口腔内観察）
６	歯科衛生アセスメント③口腔内の情報収集（検査）
７	歯科衛生アセスメント④分析のためのデータ（指数）
８	歯科衛生アセスメント⑤分析のためのデータ（画像）
９	歯科衛生アセスメント⑥分析のためのデータ（う蝕活動性試験）
１０	歯科衛生アセスメント⑦分析のためのデータ（歯周病に関する検査）
１１	歯科衛生過程のプロセス２　歯科衛生診断①
１２	歯科衛生診断②
１３	歯科衛生過程のプロセス３　歯科衛生計画立案①
１４	歯科衛生計画立案②
１５	歯科衛生過程のプロセス４　歯科衛生介入①
１６	歯科衛生介入②
１７	歯科衛生過程のプロセス５　歯科衛生評価①
１８	歯科衛生評価②
１９	歯科衛生過程のプロセス６　書面化（記録）
２０	歯科衛生過程の進め方１　情報の種類
２１	歯科衛生過程の進め方２　情報収集・処理の手順①
２２	歯科衛生過程の進め方３　情報収集・処理の手順②
２３	歯科衛生過程の進め方４　歯科衛生診断文の作成
２４	歯科衛生過程の進め方５　歯科衛生順位の決定と歯科衛生診断の留意点
２５	歯科衛生過程の進め方６　歯科衛生計画立案　－　目標・計画設定のポイント
２６	歯科衛生過程の進め方７　歯科衛生介入　－　歯科衛生計画の実施
２７	歯科衛生過程の進め方８　歯科衛生評価　－　プロセスと結果の評価
２８	歯科衛生過程の進め方９　書面化　－　それぞれのプロセスにおける記録①
２９	歯科衛生過程の進め方10　書面化　－　それぞれのプロセスにおける記録②
３０	まとめ・終講試験

履修上の要件	保健指導法，予防処置法，栄養指導法と関連付けて学習する。
教科書等	よくわかる歯科衛生過程　　歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）
使用機器等	ビデオ，液晶プロジェクター，各種実習用品
成績評価の方法	終講試験60%、小テスト40%
備考	（実務経験） 地域医療の専門家として臨床経験を活かし講義する。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
全身管理と感染予防	杉原　一正	２年次通年	４５時間 ２単位	講義 演習

到達目標	歯科衛生士として知っておくべき全身疾患の基礎知識ならびに有病者の歯科診療時における注意点、救急蘇生法について学ぶとともに標準予防策を中心とした感染予防の理論と実際を習得する。

講義回数	講　義　内　容
１	なぜ歯科衛生士に全身疾患、救急蘇生、感染予防の知識が必要か学ぶ
２	救急蘇生法について学ぶ
３	一次救急処置（心肺蘇生）実習
４	ＡＥＤについて　ＤＶＤで学ぶ
５	バイタルサインについて学ぶ
６	血圧測定、脈拍測定、呼吸数測定、体温測定　実習
７	なぜ歯科診療において感染予防対策が必要か学ぶ
８	標準予防策（スタンダード・プレコーション）とは何か学ぶ
９	滅菌と消毒の定義と実際を学ぶ
１０	消毒薬の種類と消毒法を学ぶ
１１	歯科診療における感染予防対策の実際について学ぶ
１２	感染症（エイズ、Ｂ型肝炎を含む）患者の歯科診療時の注意点について学ぶ
１３	血液疾患患者の歯科治療時の注意点について学ぶ
１４	循環器疾患患者の歯科治療時の注意点について学ぶ
１５	代謝・内分泌疾患患者の歯科診療時の注意点について学ぶ
１６	消化器疾患患者の歯科診療時の注意点について学ぶ
１７	呼吸器疾患患者の歯科診療時の注意点について学ぶ
１８	腎・泌尿器疾患患者の歯科診療時の注意点について学ぶ
１９	自己免疫疾患患者の歯科診療時の注意点について学ぶ
２０	精神・神経疾患患者の歯科診療時の注意点について学ぶ
２１	産婦人科疾患患者の歯科診療時の注意点について学ぶ
２２	がん患者の歯科診療時の注意点について学ぶ
２３	まとめ・終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック（医歯薬出版） 歯科医療における国際標準感染予防対策テキスト（医歯薬出版）
使用機器等	液晶プロジェクター（パソコン）、ビデオ、黒板
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）が80点、毎回行う小テストの総合点が10点、主に授業中の態度を評価する平常点が10点の合計100点満点で成績評価を行う
備考	（実務経験） 国立大学歯学部教授としてまた歯科医師として歯科医師として、豊富な実務経験を活かし講義する。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科衛生学周術期の口腔ケア	田島　香菜	２年次	１５時間 １単位	講義 演習

到達目標	周術期における口腔機能管理の重要性を理解し、専門的知識とオーラルケアを習得する。

講義回数	講　義　内　容
1	周術期の口腔機能管理　　概論
2	誤嚥性肺炎の周術期予防　　手術における周術期口腔機能管理
3	化学療法における口腔機能管理
4	放射線治療における口腔機能管理
5	振返り、事例におけるアセスメントと歯科衛生過程、グループワーク
6	グループワーク発表、講評
7	緩和医療　造血幹細胞移植における口腔機能管理
8	まとめ・終講試験

履修上の要件	
教　科　書　等	これからはじめる周術期口腔機能管理マニュアル（永末書店）
使用機器等	液晶プロジェクター・パソコン　（顎模型、スポンジブラシ）
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）90%、歯科衛生過程記録 5%、授業態度5%
備　　考	大学病院の歯科衛生士としての実務経験を活かし講義する

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科衛生学保健指導論Ⅰ	専任	１年次	６０時間 ２単位	講義 演習

到達目標	人々のＱＯＬ向上のために、専門的立場から各ライフステージにおいて望ましい保健行動を理解し、支援する能力を身につける。また、社会のニーズに合わせた口腔保健管理者としての能力を習得する。

講義回数	講　義　内　容	
1	歯科保健指導論の概要①（定義・考え方・法的位置づけ）	
2	歯科保健指導論の概要②（健康の概念）	
3	口腔清掃方法１（歯ブラシの種類別の特徴・種類・適応・使用法と注意点）	
4	口腔清掃方法２（補助清掃用具の使用目的と使用方法）	
5	口腔清掃方法３（毛先磨き・脇腹磨き・毛先磨き・歯肉マッサージ）	
6	口腔清掃方法４（タフトブラシ・舌ブラシ）	
7	口腔清掃方法５（歯磨剤・洗口剤）	
8	情報収集・医療面接	
9	歯科衛生過程の概要と進め方（基本的な考え方・６つの構成要素）	
１０	歯科衛生アセスメント１（分析のためのデータ/プラーク・歯石の指数）	
１１	歯科衛生アセスメント２（分析のためのデータ/ＰＣＲの相互実習①）	
１２	歯科衛生アセスメント３（分析のためのデータ/ＰＣＲの相互実習②）	
１３	ライフステージにおける歯科衛生介入	妊産婦期①（一般的特徴・口腔の特徴・歯科保健指導）
１４		妊産婦期②（栄養・食事摂取基準・食生活指導）
１５		新生児期・乳児期①（一般的特徴・口腔の特徴・歯科保健指導）
１６		新生児期・乳児期②（栄養摂取・食事摂取基準・離乳食の食生活指導）
１７		幼児期①（一般的特徴・口腔の特徴・歯科保健指導）
１８		幼児期②（食生活の特徴と栄養・食事摂取基準・食生活指導）
１９		学齢期①（一般的特徴・口腔の特徴・歯科保健指導）
２０		学齢期②（食生活の特徴と栄養・食事摂取基準・食生活指導）

２１	ライフステージにおける歯科衛生介入	青年期①（一般的特徴・口腔の特徴・歯科保健指導）
２２		青年期②（食生活の特徴と栄養・食事摂取基準・食生活指導）
２３		成人期①（一般的特徴・口腔の特徴・歯科保健指導）
２４		成人期②（食生活の特徴と栄養・肥満と生活習慣病・食事摂取基準 食生活指導）
２５		老年期①（一般的特徴・口腔の特徴・歯科保健指導）
２６		老年期②（食生活の特徴と栄養・食事摂取基準・食生活指導）
２７		要介護高齢者①（一般的特徴・口腔の特徴・歯科保健指導）
２８		要介護高齢者②（食生活の特徴と栄養・食事摂取基準・食生活指導、 口腔ケア・口腔機能訓練に向けた演習）
２９		障害者（一般的特徴・口腔の特徴・歯科保健指導・食生活の特徴と栄養）
３０	まとめ・終講試験	

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ：歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）
使用機器等	パソコン・液晶プロジェクター・実物投影機
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）80%、授業態度10%、提出物10%
備考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科衛生学保健指導論Ⅱ	専任	２年次	６０時間 ２単位	講義 演習

到達目標	人々のＱＯＬ向上のために、専門的立場から各ライフステージにおいて望ましい保健行動を理解し、支援する能力を身につける。また、社会のニーズに合わせた口腔保健管理者としての能力を習得する。

講義回数	講　義　内　容
1	歯科衛生アセスメント①（ライフステージ青年期）
2	歯科衛生診断①（ライフステージ青年期）
3	歯科衛生計画立案①（ライフステージ青年期）
4	歯科衛生介入①（ライフステージ青年期指導）
5	歯科衛生評価①（指導後の評価）
6	地域歯科保健活動①（健康教育・学校における歯科保健指導）
7	地域歯科保健活動②（指導案・教育媒体）
8	地域歯科保健活動③（幼児期における歯科保健指導案）
9	地域歯科保健活動④（幼児期における歯科保健指導計画）
１０	地域歯科保健活動⑤（幼児期における教育媒体）
１１	地域歯科保健活動⑥（障害者における歯科保健指導案）
１２	地域歯科保健活動⑦（障害者における歯科保健指導計画）
１３	地域歯科保健活動⑧（学童期歯科保健指導案）
１４	口腔機能管理に関わる指導①（口腔機能の発達に関連する指導）
１５	口腔機能管理に関わる指導②（口腔機能の低下に関する指導）
１６	生活習慣の指導①（非感染性疾患）
１７	生活習慣の指導②（喫煙者に対する指導）
１８	歯科衛生アセスメント②（ライフステージ成人期）
１９	歯科衛生計画立案②（ライフステージ成人期）
２０	歯科衛生計画立案③（ライフステージ成人期）

２１	歯科衛生診断②（ライフステージ成人期）
２２	歯科衛生介入③（ライフステージ成人期実習）
２３	歯科衛生介入④（ＰＯＳとＳＯＡＰ）
２４	歯科衛生評価②（指導後の評価）
２５	歯科衛生アセスメント③（ライフステージ老年期）
２６	歯科衛生計画立案③（ライフステージ老年期）
２７	歯科衛生診断③（ライフステージ老年期）
２８	歯科衛生介入⑤（ライフステージ老年期）
２９	歯科衛生評価⑥（指導後の評価）
３０	まとめ・終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ：歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）
使用機器等	パソコン・液晶プロジェクター・
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）80%、授業態度10%、提出物10%
備考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科衛生学保健指導論Ⅲ	専任	３年次	６０時間 ２単位	講義 演習

到達目標	人々のＱＯＬ向上のために、専門的立場から各ライフステージにおいて望ましい保健行動を理解し、支援する能力を身につける。また、社会のニーズに合わせた口腔保健管理者としての能力を習得する。

講義回数	講　義　内　容
1	歯科衛生評価　（ライフステージ成人期）
2	歯科衛生診断１　（ライフステージ成人期　情報分類/分析/解釈）
3	歯科衛生介入としての歯科保健指導　口腔機能管理に関わる指導
4	ライフステージ別口腔保健管理　小学校　低学年① 集団指導案／媒体作成
5	ライフステージ別口腔保健管理　小学校　低学年② 原稿作成
6	ライフステージ別口腔保健管理　小学校　低学年③ 評価
7	ライフステージ別口腔保健管理　小学校　中学年① 集団指導案／媒体作成
8	ライフステージ別口腔保健管理　小学校　中学年② 原稿作成
9	ライフステージ別口腔保健管理　小学校　中学年③ 評価
１０	ライフステージ別口腔保健管理　小学校　高学年① 集団指導案／媒体作成
１１	ライフステージ別口腔保健管理　小学校　高学年② 原稿作成
１２	ライフステージ別口腔保健管理　小学校　高学年③ 評価
１３	ライフステージ別口腔保健管理　中学校 集団指導案／媒体作成
１４	ライフステージ別口腔保健管理　中学校 原稿作成
１５	ライフステージ別口腔保健管理　中学校 評価
１６	歯科衛生診断２（ライフステージ成人期　診断文作成/優先順位決定）
１７	歯科衛生計画立案（ライフステージ成人期　目標・歯科衛生介入計画の設定）
１８	歯科衛生評価　（ライフステージ成人期）
１９	卒業研究について
２０	研究の準備（保護者実習症例検討）

２１	研究計画
２２	プレゼンテーション資料（種類／構成）
２３	プレゼンテーション資料作成
２４	抄録集作成方法
２５	抄録集作成
２６	プレゼンテーション原稿作成
２７	プレゼンテーション方法
２８	プレゼンテーション評価
２９	卒業研究発表会
３０	終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ：歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）
使用機器等	パソコン・液晶プロジェクター
成績評価の方法	終講試験50%　研究発表(計画10%・ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ10%・論文30%)
備考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
栄養指導法（含調理実習）	加治　美穂	１年次	３０時間 １単位	講義 演習

到達目標	栄養の基本的知識に基づく、望ましい食事を調理し、自ら実践できるようになる。 歯科衛生士として対象者に歯科的観点から指導できる調理方法を習得する。

講義回数	講　義　内　容
1	栄養指導の概要･目的をわかる。調理実習時の注意を認識する。
2	調理実習（調理の基本を踏まえ健康食を作る）
3	食べられないときの食事指導を学ぶ。
4	調理実習（胃腸に優しい、飲み込みしやすい食事を作る）
5	各ライフステージ別の栄養の特徴、食事形態や食事療法について学ぶ
6	幼児期の食事指導の注意点を学ぶ。
7	調理実習（幼児期に適したしっかり噛みたい食事を作る）
8	学童期の食事指導の注意点を学ぶ。
9	調理実習（学童期の健康な体をつくるよう栄養配分された食事を作る）
１０	味の成因を知り、食材としての食品の特徴を学ぶ
１１	青年期に多い貧血の食事指導の注意点を学ぶ
１２	調理実習（貧血予防の食材を用い食事を作る）
１３	高齢者の食事指導の注意点を学ぶ。
１４	調理実習（高齢者の嚥下や咀嚼を考え食事を作る）
１５	終講試験

履修上の要件	
教　科　書　等	資料をコピーして配布
使用機器等	調理実習室
成績評価の方法	受講態度50%、終講試験50%
備　　考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科診療補助論Ⅰ	白川 亜季	１年次	９０時間 ３単位	講義 演習

到達目標	歯科衛生士業務の基本である歯科診療補助を行うための知識と技術を身につける。

講義回数	講　義　内　容
1	診療補助基礎（1）　診療補助とは　講義
2	診療補助基礎（2）　医療安全と感染予防　講義
3	歯科診療室の基礎知識・身だしなみ　歯科診療室の環境　講義
4	手指消毒・滅菌・消毒（1）　手指消毒の手順、滅菌・消毒法の理解　講義
5	手指消毒・滅菌・消毒（2）　実習
6	共同動作　（1）　ポジショニング・ライティング　講義
7	器具の取り扱い　受け渡し　講義・実習
8	共同動作　（2）　ポジショニング・ライティング　実習
9	バキュームテクニック･スリーウェイシリンジテクニック（1）　講義
１０	バキュームテクニック･スリーウェイシリンジテクニック（2）　実習
１１	バキュームテクニック･スリーウェイシリンジテクニック（3）　実習
１２	歯科衛生用品（1）　種類と用途の理解　講義・実習
１３	歯科衛生用品（2）　種類と用途の理解　講義・実習
１４	薬品（薬物）・歯科材料の管理　基本的知識、取り扱い　講義
１５	総合実習（1）　ユニット操作・共同動作・口腔内洗浄　実習
１６	総合実習（2）　ユニット操作・共同動作・口腔内洗浄　実習
１７	印象採得（1）　印象材　基礎知識、種類と手順　講義
１８	印象採得（2）　アルジネート印象材①　講義・実習
１９	印象採得（3）　アルジネート印象材②　講義・実習
２０	印象採得（4）　寒天印象材①　講義・実習
２１	印象採得（5）　寒天印象材②　講義・実習
２２	前期まとめ（中間テスト）　試験
２３	歯肉圧排　基礎知識、手順　講義・実習
２４	印象採得（6）　合成ゴム質印象材①　講義・実習
２５	印象採得（7）　合成ゴム質印象材②　講義・実習

２６	ラバーダム実習（１）ラバーダム防湿の目的、手順　講義
２７	ラバーダム実習（２）　実習
２８	ラバーダム実習（３）　実習
２９	歯科用石膏（１）　基礎知識・手順　講義・実習
３０	歯科用石膏（２）　基礎知識・手順　講義・実習
３１	仮封材（１）　水硬性　講義・実習
３２	仮封材（２）　テンポラリーストッピング　講義・実習
３３	仮封材（３）　ネオダイン・デュラシール　講義・実習
３４	合着材（１）　リン酸亜鉛セメント・カルボ・グラス　講義
３５	合着材（２）　リン酸亜鉛セメント　実習
３６	合着材（３）　カルボキシレート・グラスアイオノマー　講義・実習
３７	ワックス　基礎知識、種類と用途　講義・実習
３８	成形歯冠修復材（１）　基礎知識・手順
３９	成形歯冠修復材（２）　コンポジットレジン　実習
４０	成形歯冠修復材（３）　グラスアイオノマー　実習
４１	印象採得（８）相互印象採得　（アルジネート印象材）　実習
４２	印象採得（９）相互印象採得　（アルジネート印象材）　実習
４３	１年次まとめ　相互実習　実習
４４	１年次まとめ　相互実習　実習
４５	まとめ・終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ：歯科診療補助論、歯科材料、歯科機器（医歯薬出版）
使用機器等	
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）５０％、レポート１５％、 中間試験（小テスト含む）２０％、授業態度１５％
備考	（実務経験） 歯科衛生士,臨床実習指導者として豊富な経験を活かし講義や実習を担当する。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科診療補助論Ⅱ	中村　芳子	２年次	９０時間 ３単位	講義 演習

到達目標	歯科衛生士業務の基本である歯科診療補助を行うための知識と技術を統合し実践できる。

講義回数	講　義　内　容
1	歯科診療補助総論　医療人としての基本姿勢について
2	共同動作１　患者対応の基本　共同動作における行動パターンの確立・印象採得
3	共同動作２　患者対応の基本　共同動作における行動パターンの確立・印象採得
4	相互実習１　相互実習デモ　綿球・綿栓・コットンロール作成
5	相互実習２　相互実習　口腔内洗浄・口腔内観察・口腔内写真・印象採得・咬合採得
6	相互実習３　相互実習　口腔内洗浄・口腔内観察・口腔内写真・印象採得・咬合採得
7	相互実習４　相互実習　口腔内洗浄・口腔内観察・口腔内写真・印象採得・咬合採得
8	顎模型作成１　石膏模型トリーミング
9	顎模型作成２　石膏模型トリーミング
１０	顎模型作成３　石膏模型トリーミング
１１	保存修復時の診療補助１　ラバーダム防湿
１２	保存修復時の診療補助２　ラバーダム防湿
１３	保存修復時の診療補助３　仮封材の取り扱い
１４	保存修復時の診療補助４　仮封材の取り扱い
１５	補綴時の診療補助１　暫間被覆冠作成　既製冠・間接法
１６	補綴時の診療補助２　暫間被覆冠作成　既製冠・間接法
１７	補綴時の診療補助３　セメント練和　テンポラリーセメント練和（暫間被覆冠装着）
１８	実技試験　綿球・綿栓・ロールコットン　暫間被覆冠除去（テンポラリーセメント除去）
１９	口腔外科時の診療補助１　デモ カートリッジ交換・メス交換・持針器・歯周パック・口腔外科器具の理解
２０	口腔外科時の診療補助２　デモ カートリッジ交換・メス交換・持針器・歯周パック・口腔外科器具の理解
２１	口腔外科時の診療補助３　デモ カートリッジ交換・メス交換・持針器・歯周パック・口腔外科器具の理解
２２	歯内療法時の診療補助１　症状別の手順の理解・器材、材料の理解
２３	歯内療法時の診療補助２　症状別の手順の理解・器材、材料の理解
２４	矯正時の診療補助　症状別の手順の理解・器材、材料の理解
２５	情報収集　バイタル測定　体温・脈拍・血圧測定

２６	総合実習１　チーム別　総合実習立案
２７	総合実習２　バイタル測定　口腔内観察　口腔内洗浄　表面麻酔　プロービング 口腔内写真　印象採得
２８	総合実習３　バイタル測定　口腔内観察　口腔内洗浄　表面麻酔　プロービング 口腔内写真　印象採得
２９	総合実習４　バイタル測定　口腔内観察　口腔内洗浄　表面麻酔　プロービング 口腔内写真　印象採得
３０	総合実習５　バイタル測定　口腔内観察　口腔内洗浄　表面麻酔　プロービング 口腔内写真　印象採得
３１	顎模型作製１　保護者実習模型作成
３２	顎模型作製２　保護者実習模型作成
３３	顎模型作製３　保護者実習模型作成
３４	症状別治療時の診療補助１　器具・器材の準備
３５	症状別治療時の診療補助２　器具・器材の準備
３６	症状別治療時の診療補助３　器具・器材の準備
３７	症状別治療時の診療補助４　器具・器材の準備
３８	症状別治療時の診療補助５　チーム別実技試験
３９	症状別治療時の診療補助６　チーム別実技試験
４０	症状別治療時の診療補助７　口内撮影実習
４１	症状別治療時の診療補助８　口内撮影実習
４２	実技試験１　トレーセティング
４３	実技試験２　トレーセティング
４４	実技試験３　トレーセティング
４５	終講試験

履修上の要件	
教科書等	歯科衛生学シリーズ：歯科診療補助論（医歯薬出版）
使用機器等	
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）50点、口頭試験5点、実技試験15点、レポート30点
備考	（実務経験）　歯科衛生士としての臨床経験や歯科衛生士養成施設教員の経験を活かし講義や実習を担当する。

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
歯科材料学	藤井　孝一	１年次前期	３０時間 １単位	講義 演習

到達目標	歯科医師や患者および歯科技工士とのコミュニケーションが円滑にでき、歯科診療補助や予防処置などの業務を円滑に行うため、歯科材料の種類、用途、取扱いなどの基本的知識をしっかり習得し、卒業後の歯科衛生士としての高い素養を身につける。

講義回数	講義内容	
1	オリエンテーション	シラバスの説明、講義の進め方/歯科材料とは (印象材と石膏を用いた実習を含む)
2	歯科材料と歯科衛生士 歯科材料の基礎知識１	材料の特性を添付書類から読み取り・理解/正しい取扱いなどの意義 素材(金属・無機・有機・複合)の一般的特徴/材料の口腔内外での所要性質
3	歯科材料の基礎知識２	ＳＩ基本単位/機械的・物理化学的・生物学的性質/練和/接着/材料の取扱い
4	歯科衛生に使う材料	歯面研磨材の種類・組成・用途/小窩裂溝塡塞材の種類・使用上の注意点/ 口腔清掃用具の種類と特徴
5	印象材	歯科臨床での印象採得の目的/各種類とその適応例/ 弾性印象材の成分・組成と硬化のメカニズム/印象採得時の印象の変形
6	石　膏	模型用材料の種類/石膏の種類と用途・取扱い・一般的性質 硬化反応・混水比・硬化時間・硬化膨張・吸水膨張などに及ぼす影響
7	合着材・接着材	合着材・接着材の種類と成分および特性と所要性質 組成と硬化反応および特徴/接着性レジンセメントの組成と硬化反応および特徴
8	成形修復材	成形修復材の種類・成分・組成・硬化反応・用途・取扱い/歯質との接着機構
9	仮封材	仮封材の種類・組成・用途・特徴・取扱い
１０	暫間修復材 仮着セメント	暫間修復材の種類・用途 仮着セメントの種類・性質
１１	ワックス	ワックスの種類・成分・性質・用途・所要性質・取扱い
１２	金　属	歯科用金属の安全性/合金の種類・所要性質・用途
１３	セラミックス	歯科応用例/歯科用陶歯/歯冠修復用セラミックスの種類・性質
１４	その他の歯科材料１	乳歯用被覆冠の種類/歯科用保存材料(歯肉圧排糸・歯周パック・漂白剤) 歯科矯正用材料/歯科補綴用材料(人工歯・義歯床用レジン・裏装材)
１５	その他の歯科材料２ 終講試験	インプラント用材料/ＣＡＤ・ＣＡＭ用材料などの性質・特徴 講義模範の出題(四肢択一)、および毎回の講義で出題した小テスト問題

履修上の要件	出席時限数が総数の2/3以上であり、下記「成績評価の方法」で60%以上であること
教科書等	歯科衛生学シリーズ：歯科材料(医歯薬出版)を使用/教本に基づく講義範囲別に要約した配布資料/　必要に応じて歯科理工学教育用語集第３版(医歯薬出版)
使用機器等	ＰＣ・液晶プロジェクターと補助的にホワイトボードの使用/および必要に応じ各種歯科用機器・材料
成績評価の方法	終講試験(筆記試験)を80%、毎回の小テストを10%、および平常点を10%とし、これらを合計した100%で評価
備考	毎回の小テストは、予習および復習のチェックポイントを含み、その評価を行い解説をする

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
診療報酬請求事務	岩元　佳織	３年次	１５時間 １単位	講義 演習

到達目標	診療報酬請求業務について具体的に学ぶ。 医療報酬制度のしくみを理解し，診療報酬に関心をもつ。

講義回数	講　義　内　容
1	・医療人としてのマナーと接遇 ・患者さんとのコミュニケーションのとり方 ・保険請求の流れ ・保険の種類について
2	・仕事観とは～素直・プラス発想・勉強好き～ ・カルテの表書きについて（保険証転記・部位と病名）
3	・チーム医療とは～Ｄｒ，Ｄｈ，Ｔｃ，Ｄａ受付各自の役割～ ・傷病名と略称について ・病名に対する治療の流れ～Ｐ，Ｇ～
4	・気づきの幅をひろげよう　　～記憶と記録の違い～　　～言葉の伝達と72時間ルール～ ・病名に対する治療の流れ～Ｃ～
5	・初診カウンセリングとは～主訴の聞き取り～ ・アポイントの取り方について ・病名に対する治療の流れ～Ｐｕｌ，Ｐｅｒ～
6	・口腔内のチェックのしかた ・Ｄｒへの報告の仕方 ・カルテ記載 ・病名に対する治療の流れ～補綴～
7	・受付業務～敬語の使い方・電話対応・クレーム対応～ ・病名に対する治療の流れ～外科～
8	・試験

履修上の要件	
教科書等	資料配布
使用機器等	
成績評価の方法	実技Ⅰ（患者接遇）10%，実技Ⅱ（レセプト記入・点検）20%，筆記試験　70%
備考	（実務経験） 歯科医院で歯科衛生士としての実務経験を活かし講義や演習を担当する。

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
歯科口腔放射線論	犬童 寛子・河野 一典	２年次	３０時間 １単位	講義 演習

到達目標	エックス線の基本的知識を学び、基本的な撮影技術（補助）を習得するとともに、放射線の人体に対する影響や防護について理解できる。

講義回数	講義内容
1	エックス線の基礎知識１ 身近な放射線、放射線の種類
2	エックス線の基礎知識２ X線の性質、単位
3	放射線の人体に対する影響、放射線防護、放射線被曝と放射線障害
4	歯科用エックス線装置の基本的構造ーエックス線の発生
5	デジタルエックス線撮影装置ー画像の成り立ち、投影の原理
6	口内法撮影・理論（二等分法・平行法・咬翼法・咬合法）
7	口内法撮影１ 正常像および病態像
8	口内法撮影２ 補助・実際(歯科衛生士の役割)
9	口外法撮影（パノラマ撮影～原理と病態像～、セファロ他）
１０	撮影用器材（エックス線フィルム、増感紙他）
１１	フィルムの現像（フィルムの種類と構造・フイルムの現像）
１２	放射線治療、最新の画像診断ーCT、MRI、超音波・RIなど
１３	口内法撮影３ 手指法による相互撮影実習
１４	口内法撮影４ インジケータによる相互撮影実習
１５	まとめ、終講試験

履修上の要件	講義、実習に対し、意欲を持って臨み、予習・復習をしっかりと行う
教科書等	歯科衛生学シリーズ ： 歯科放射線学（医歯薬出版） 学建書院 歯科衛生士テキスト ： 分かりやすい歯科放射線学 第3版
使用機器等	パソコン・プロジェクター
成績評価の方法	終講試験（筆記試験）100％
備考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
人間形成論Ⅰ	下田平 江理・赤岩 広志	１年次前期	３０時間 １単位	講義 演習

到達目標	多様な価値観を受け容れる柔軟性を持ち、周囲と能動的、協調的に関われるよう対人関係力を高めることを目標とします。また、ビジネスマナーやコミュニケーション能力を高め、専門知識を発揮するための基礎を築きます。

講義回数	講　義　内　容
1	伝えるということ
2	自分史作り
3	自己PR
4	自己PR演習1　声を整える　（発生練習、早口言葉）
5	自己PR演習2　声を整える　（話す技術体験）
6	インタビューに挑戦
7	お礼状を書く　知っておきたい一般常識や間違えやすい言葉使い
8	認証（アイデンティティー）
9	認証・認識
１０	立ち姿・立ち振舞い
１１	立ち振舞い・歩く事
１２	歩く・立つ・姿勢
１３	歩く・立つ・姿勢
１４	美しい立ち振舞いと美しい心
１５	終講試験

履修上の要件	
教科書等	HOSPITALITY MAIND 講師作製プリント使用
使用機器等	プロジェクター
成績評価の方法	授業参加態度・感想文評価50%、終講試験50%
備考	歩く・立つ・姿勢では体育館シューズを持参する

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
人間形成論Ⅱ	有村 靖子・川畑 敬志	１年次	３０時間 １単位	講義 演習

到達目標	・働くことの意味を知り、お金の常識について理解を深め、自己の個別性を認識したうえでどのような社会人になりたいかについて考える。 ・心理療法（フォーカシング、ゲシュタルト療法）をベースにアートを使ったエクササイズ等を通して、自分自身へ気づき、自己も他者も大切にする生き方を知る。

講義回数	講　義　内　容
1	お金の基本Ⅰ（生活設計と家計管理）
2	お金の基本Ⅱ（貯蓄、買い物と支払い）
3	お金の基本Ⅲ（お金を借りること）
4	お金の基本Ⅳ（自立した消費者になるために）
5	働くときの基礎知識Ⅰ（働くとは）
6	働くときの基礎知識Ⅱ（社会保障制度、コンプライアンス）
7	理解度テスト
8	心が出会うエクササイズ
9	心を整理する方法
１０	からだの声を聴く方法
１１	フォーカシング的態度を学ぶ
１２	価値観を再確認する
１３	自分の良さを育てる方法
１４	今の自分へのメッセージを知る
１５	終講試験　　まとめ

履修上の要件	出席時数が2/3以上を満たし、理解度テストで(30/50点満点)以上を取得すること
教科書等	知るぽると(金融広告中央委員会編)、金融商品・サービス(全国銀行協会)、プリント
使用機器等	プロジェクター、ＤＶＤ
成績評価の方法	理解度テスト50%、終講試験50%
備考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
音　楽	海老原　麻衣	１年次	３０時間 １単位	講義 演習

到達目標	音楽を通して、創造的な表現力の能力を伸ばすと共に、実際に音楽を通して実践的な能力を習得できる。

講義回数	講　義　内　容
1	音楽の表現法，発声法
2	音の長さ・リズムを揃えて演奏する
3	歌詞の意味を考えて歌う
4	響きを感じながら合唱する
5	響きを感じながら合唱する
6	パートナーソングを歌う
7	いろいろな音を聴く
8	レポート発表
9	童謡を歌う
１０	歯磨き・口・舌の動きを調べる
１１	歌詞の作成
１２	練習・説明書作り
１３	発表
１４	歌唱試験
１５	復習・まとめ

履修上の要件	
教科書等	プリント使用
使用機器等	ピアノ，CDラジカセ
成績評価の方法	レポート、発表、実技試験 40%　　平常点 60%
備考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
保健体育（レクリエーション）	平川　洋介	１年次	３０時間 １単位	講義 演習

到達目標	体育、レクリエーションの知識・技術の向上とともに体力向上を図る。集団競技やグループ学習を通して、協調性やコミュニケーション能力を高める。

講義回数	講　義　内　容
1	オリエンテーション
2	バレーボール（レシーブ・スパイク）
3	バレーボール（トス・スパイク）
4	バレーボール（３段攻撃の活用）
5	バレーボール（リーグ戦）
6	バレーボール（リーグ戦）
7	保健体育講義（運動学：筋肉と脂肪）
8	バドミントン（レシーブ・スマッシュ）
9	バドミントン（ドライブ・スマッシュ）
１０	バドミントン（ダブルス試合）
１１	バドミントン（ダブルス試合）
１２	保健体育講義（遊びとスポーツ）
１３	バスケットボール（パス・レイアップシュート）
１４	バスケットボール（リーグ戦）
１５	バスケットボール（リーグ戦）

履修上の要件	
教科書等	なし
使用機器等	体育備品等
成績評価の方法	実技20%と平常点80%
備考	活動場所：体育館、大峯グランド及び教室

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科衛生学特論Ⅰ	専任	１年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	１年次に終了した専門基礎分野科目と専門分野科目を理解する。

講義回数	講　義　内　容	
1	人体・歯・口腔の構造と機能	人体の構造
2		人体の機能・構成成分
3		歯・口腔の構造
4		歯・口腔の機能・組成
5		栄養と代謝
6	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病因と病態
7		感染と免疫
8		生体と薬物
9	中　間　試　験	
１０	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会仕組み	総論
１１		口腔清掃
１２		う蝕の予防
１３		歯周病の予防
１４	歯科衛生士概論	歯科衛生士とその業務
１５	終　講　試　験	

履修上の要件	1年次の科目終了後
教科書等	教科書、新常用歯科辞典、問題集
使用機器等	
成績評価の方法	終講試験60%，中間試験30%，ノート提出10%
備考	遠隔授業で行う場合もあります。

授業科目名	担当講師名	実施時期	単位	授業方法
歯科衛生学特論Ⅱ	専任	２年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	２年次に終了した専門基礎・専門分野の終了科目を理解する。

講義回数	講義内容	
1	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会仕組み	歯科疾患の予防／歯科疾患の疫学と歯科保健統計
2		地域歯科保健活動／環境・社会と健康
3		保健・医療・福祉の制度
4	臨床歯科医学	臨床歯科総論／歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療
5		歯の欠損と治療／顎・口腔領域の疾患と治療／不正咬合と治療
6		小児の理解と歯科治／高齢者の理解と歯科治療 障害者の理解と歯科治療
7	歯科予防処置論	歯周予防処置
8		う蝕予防処置
9	歯科保健指導論	生活習慣指導／食生活指導
１０		口腔機能管理／健康教育
１１	模擬試験	
１２	歯科診療補助論	保存治療時の診療補助／補綴治療時の診療補助
１３		口腔外科治療時の診療／矯正治療時の診療補助
１４		小児歯科治療時の診療補助／高齢者治療時の診療補助 障害者治療時の診療補助
１５	終講試験	

履修上の要件	2年次の科目終了後
教科書等	国家試験問題集、教科書、新常用歯科辞典
使用機器等	
成績評価の方法	終講試験50%，模擬試験30%，ノート提出10%,授業への参加態度10%
備考	遠隔授業で行う場合もあります。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
歯科衛生学特論Ⅲ	専任	３年次	３０時間 １単位	講義

到達目標	総合学習を行い学力の向上を図り、国家試験合格レベルに到達する。

講義回数	講　義　内　容
1	人体・歯・口腔の構造と機能１　人体の構造/人体の機能・構成成分
2	人体・歯・口腔の構造と機能２　歯･口腔の構造・機能・組成
3	疾病の成り立ち及び回復過程の促進１　病院と病態/感染と病態
4	疾病の成り立ち及び回復過程の促進２　生体と薬物
5	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み１　口腔清掃/う蝕･歯周病の予防/歯科疾患の疫学と歯科保健統計
6	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み２　地域歯科保健活動/環境･社会と健康/保健・医療福祉の制度
7	臨床歯科医学１　歯･歯髄･歯周組織の疾患と治療/歯の欠損と治療
8	臨床歯科医学２　顎･口腔領域の疾患と治療/不正咬合と治療/小児の理解と歯科治療
9	臨床歯科医学３　高齢者の理解と歯科治療/障害者の理解と歯科治療
１０	模擬試験
１１	歯科予防処置論　歯周予防処置/う蝕予防処置
１２	歯科保健指導論　情報収集/口腔衛生管理/食生活指導/口腔機能管理/健康教育
１３	歯科診療補助論１ 治療時の診療補助
１４	歯科診療補助論２　矯正治療時･小児歯科治療時･高齢者治療時･障害者治療時の診療補助
１５	終講試験(模擬試験)

履修上の要件	３年次の科目終了後
教科書等	歯科衛生士国家試験問題集（医歯薬出版）　歯科衛生士国試対策集（ｸｲﾝﾃｯｾﾝｽ出版） 各教科書
使用機器等	
成績評価の方法	終講試験60%，模擬試験30%，授業への参加態度10%
備考	遠隔授業で行う場合もあります。

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
基本介護技術	脇薗　とし子	２年次	４０時間	講義 演習

到達目標	利用者を総合的に理解するために必要な基礎的な知識と科学的な知識に裏づけられた問題や課題解決の方法を理解する。

講義回数	講　義　内　容
1	基本知識の学習（介護の基本的な考え方）
2	介護に関するこころとからだのしくみの基本的理解
3	整容に関するこころとからだのしくみと自立に向けた介護
4	整容に関する基礎知識と用具の活用方法
5	移動に関するこころとからだのしくみと自立に向けた介護
6	移動・移乗に関する基礎知識と用具の活用方法
7	負担の少ない移動・移乗と支援方法　移動と社会参加の留意点
8	食事に関するこころとからだのしくみと自立に向けた介護
9	食事環境の整備と用具の活用・食事を阻害する要因と支援
１０	入浴と清潔保持に関するこころとからだのしくみと自立に向けた介護
１１	入浴と清潔保持に関する基礎知識 入浴を阻害する要因と支援方法
１２	排泄に関するこころとからだのしくみと自立に向けた介護
１３	排泄に関する基礎知識・排泄環境の整備と用具の活用方法
１４	爽快な排泄を阻害する要因と支援方法
１５	睡眠に関する基礎知識・睡眠環境と用具の活用方法
１６	快い睡眠を阻害する要因と支援（ベットメーキング）
１７	ベットメーキングテスト
１８	死にゆく人に関するこころとからだのしくみと終末期介護
１９	総合生活支援技術演習 1
２０	総合生活支援技術演習 2

履修上の要件	
教科書等	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版）
使用機器等	
成績評価の方法	
備考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
特別講義（摂食嚥下指導）	大園　さゆり	２年次	１５時間	講義 演習

到達目標　摂食・嚥下とその障害について理解し，口腔管理と基礎訓練の技術を習得する。

講義回数	講　義　内　容
1	摂食嚥下障害とは
2	嚥下のメカニズム
3	嚥下性肺炎
4	検査，診断
5	体位と食品
6	症状と対処法
7	基礎訓練と摂食訓練
8	口腔管理

履修上の要件	
参考書等	資料をコピーして配布
使用機器等	液晶プロジェクター・パソコン
成績評価の方法	
備考	

授　業　科　目　名	担　当　講　師　名	実　施　時　期	単　位	授業方法
特別講義	川添 ふさえ・春口 富美子	１年後期	１２時間	講義 演習

到達目標	・ 簡単なクラフトを学び、趣味を持つことの意味を知る ・ 日本人としてお茶に親しむ心を育てる ・ 女性としてのマナーをレストランで実食しながらプロより学ぶ

講義回数	講　義　内　容
1	シューズバッグ作製
2	シューズバッグ作製
3	トートバッグ作製
4	トートバッグ作製
5	煎茶作法
6	煎茶作法

履修上の要件	
テキスト・教材	裁縫セット
使用機器等	プリント使用
成績評価の方法	
備考	

臨地実習

目的：臨地での実践活動を通して歯科診療補助・歯科予防処置・歯科保健指導等について歯科衛生士の役割を学び、口腔保健管理者としての能力を習得する。

期間：３年間を通して、学年に応じた内容の現場活動を行う。

場所：歯科医院・大学病院・市立病院・幼稚園・小学校・中学校・盲学校・介護老人保健施設・障がい者施設等

内容：歯科診療補助・歯科予防処置・歯科保健指導・食事介助・口腔ケア・患者応対・集団指導・訪問診療等

評価：実習評価は２０単位（900 時間）である。
（１年次：１単位　　２年次：４単位　　３年次：１５単位）

- リクワイアメント達成度：実施しなければならない歯科衛生業務の目標値に基づいて行われる。
- 評価は実習態度、実習記録、出欠について行われる。

〔注意事項〕

① 実習開始の１か月前までに予防接種（麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘）、結核検査（胸部エックス線写真撮影）、Ｂ型肝炎ウイルス検査（抗体陰性の者はワクチン接種）を受けなければならない。
② 欠席・遅刻・早退・休憩・実習停止等の場合、補習実習を行わなければならない。
③ 臨地実習保険に加入しなければならない。
④ 器具破損等があった場合は弁償しなければならない場合もある。
⑤ 針刺し事故等があった場合は直ちに実習責任者と教員に報告する。
⑥ 実習２週間前より検温を実施し１日の行動と共に記録をとり、その記録を実習期間中は持参する。又、発熱が認められた場合は実習を中止して担任に連絡する。

臨地実習計画

臨地実習Ⅰ（1年次）　1単位

時期	項目	内容
5･6月	歯と口の健康週間実習	2年生幼稚園実習の補助
		3年生小学校実習の補助
		市民のための健康相談行事参加
2月	歯科医院体験実習（1W）	各地域歯科医院での実習

臨地実習Ⅱ（2年次）　4単位

時期	項目	内容
5･6月	歯と口の健康週間実習	幼稚園歯科保健指導
		盲学校･養護学校保健指導
		3年生小学校実習の補助
		市民のための健康相談行事参加
10月	基 礎 実 習（1W）	歯 科 医 院 実 習
2月	第Ⅰ期 実習（3W）	〃

臨地実習Ⅲ（3年次）　15単位

時期	項目	内容
4･5月	第 Ⅱ 期 実 習	歯 科 医 院 実 習
6月	歯と口の健康週間実習	中学校歯科保健指導①
		中学校歯科保健指導②
		小学校歯科保健指導①
		小学校歯科保健指導②
		小学校歯科保健指導③
		小学校歯科保健指導④
6･7月	第Ⅲ･Ⅳ期実習	病院実習（2施設）
9月	第Ⅴ期実習	介護老人保健施設実習（2施設）
10.11月	第Ⅵ期実習	障がい者施設実習
11月	第Ⅶ期実習	歯 科 医 院 実 習

介護職員初任者研修

1．高齢社会において身体介護の援助を含め、各施設や在宅訪問診療に伴う訪問歯科衛生指導や口腔ケアに対応できる歯科衛生士になることを目的とする。

2．本研修の全課程修了者には介護職員初任者研修課程修了証を発行する。

3．研修は130.5時間である。

4．研修は本校で実施する。

5．遅刻・欠席・欠課の場合は研修修了者として認めない。

6．やむをえない事情で欠課等が生じた場合は補習を受けることが必要である。
　＊　レポート未提出も欠課と同等扱いとする。

7．補習は1コマにつき 2,000 円を添えて学校長に補習願を提出し、許可された場合のみ受講できる。

令和5年度介護職員初任者研修計画

	科目	時間	コマ数	講師名	内　容
	オリエンテーション	1.5	1	専任教員	
1	職務の理解	6	4	楠元	1.多様なサービスの理解
					2.介護職の仕事内容や働く現場の理解
2	介護における尊厳の保持・自立支援	9	6	笹峯	1.人権と尊厳を支える介護
					2.自立に向けた介護
3	介護の基本	6	4	楠元	1.介護職の役割、専門性と他職種との連携
					2.介護職の職業倫理
					3.介護職における安全の確保とリスクマネジメント
					4.介護職の安全
4	介護・福祉サービスの理解 と医療との連携	9	6	毛利	1.介護保険制度等
				谷口(W) 寺師(P)	2.医療との連携とリハビリテーション
				毛利	3.障害者自立支援制度およびその他制度
5	介護におけるコミュニケーション技術	6	4	毛利	1.介護におけるコミュニケーション
					2.介護におけるチームのコミュニケーション
6	老化の理解	6	4	笹峯	1.老化に伴うこころとからだの変化と日常
					2.高齢者と健康
7	認知症の理解	6	4	笹峯	1.認知症を取り巻く状況
					2.医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理
					3.認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活
					4.家族への支援
8	障害の理解	3	2	藤田	1.障害の基礎的理解
					2.障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識
					3.家族の心理、かかわり支援の理解
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	75	50	脇薗	Ⅰ　基礎知識の学習(10～13h)
					1.介護の基本的な考え方
					2.介護に関するこころのしくみの基礎的理解
					3.　〃　からだのしくみの基礎的理解
					Ⅱ　生活支援技術の学習(50～55h)
				河井	4.生活と家事
				寺師(P)	5.快適な居住環境整備と介護
				脇薗	6.整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
					7.移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
					8.食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
					9.入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
					10.排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
					11.睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
					12.死にゆく人に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
				脇薗	Ⅲ　生活支援技術演習(10～12h)
					13.介護過程の基礎的理解　＊ケアプラン作成(3～4コマ)
					14.総合生活支援技術演習　＊介護技術(1～2コマ)
10	振り返り	4.5	3	垂野	1.振り返り
					2.就職者への備えと研修終了後における継続的な研修
		130.5	85		※(試験　1h)

(W):介護福祉学科教員　・　(P):理学療法学科教員

保護者実習

目　的　口腔保健管理者としての技術習得のために、歯科衛生業務を歯科衛生過程にのっとり保護者を対象に約１年間にわたり実践する。歯科保健指導・歯科予防処置の効果を確認し、併せて、歯科診療補助業務の体験を通して必要な知識・技術を確認し、臨地実習に備える。

また、最終的に実施内容を卒業研究論文としてまとめる。

１　実施時期

２年次後期　～　３年次前期

２　実施場所

本校３階実習室

３　実施方法

①１回９０分間の実習を歯科衛生過程のもと４回実施する。
②対象者は基本的に保護者とし、４回全て参加できること。
③初回で情報収集を行い整理分析し、実習目標を決め介入計画を立てる。
④２～４回は目標にそって介入し評価を行う。
⑤実習には毎回、２名以上の専任教員が指導に当たる。

４　実習評価

相対的に評価し、歯科保健指導実習Ⅲの成績に加えるものとする。

卒 業 研 究

目的　　ヘルスプロモーションの担い手として生涯を通じた継続的な口腔保健管理の実践方法を学ぶ機会とする。方法としては、２年次に行った保護者実習を基に、保護者のケアプランを作成しその成果をまとめる。

１　期間　　３年次９月～１２月

２　項目　　歯科予防処置論　　歯科保健指導論

３　研究方法　　歯科衛生過程に則して行う。

①　１年次スタート時点で計画についてオリエンテーションを行う。
教科の中で学ぶべき項目について確認を行う。
②　２年次の保護者実習スタート前に１年間の流れについてオリエンテーションを行う。
③　保護者に案内を行い、面接法で説明をする。
④　問診・初期診査などで情報収集を行い、スタディモデル・口腔内写真をとる。
⑤　歯科衛生アセスメント・歯科衛生診断を行う。
⑥　歯科衛生計画を立案する。
⑦　歯科衛生介入を行う。
経過記録をＳＯＡＰで記入する。
⑧　歯科衛生評価を行う。
⑨　パワーポイントと発表原稿作成する。（情報処理技術）
⑩　抄録集にまとめる。
⑪　保護者・２年生同席のもと、プレゼンテーションを行う。

４　研究のまとめと評価
①　卒業論文として提出し、卒業研究発表会においてパワーポイントを使用し、プレゼンテーションを行う。
②　評価は歯科保健指導実習Ⅲの成績となる。

諸　規　定

・終講試験

・校時表

・週番の役割

終 講 試 験

１．　各科目毎、指定時間終了後、講義最終時間に実施する。

２．　１科目５０分間１００点満点の試験とする。

３．　６０点以上を合格とし、単位修得となる。

４．　不合格の場合は再試験を受験しなければならない。

５．　再試験受験の場合は再試受験願・個人成績一覧表と共に受験料3,000円を添えて担任へ再試験前日までに提出する。（学生便覧参照 P61）

６．　再試験は５０分間で実施し、６０点以上を合格とし、単位修得となる。

７．　再試験不合格の場合は原則として単位未修得となる。

※1 終講試験成績については本人へ随時通達し３月に年間の一覧を保護者に送付する。

※2 再試結果は前期科目は１１月、後期科目は３月に本人へ個人票で通達する。

※3 正当な理由で未受験の場合は、追試験を受けることができるが、受験料1,000円が必要。取得点の８０％が成績となる。

※4 各自で、欠課数・欠席数を常に把握し、受験資格を失わないようにする。

【 校 時 表 】

時　　間			時　　限	内　　容
8：55	～	9：05		ショートホームルーム
9：05	～	10：35	1　　限	講義　（実習）
10：45	～	12：15	2　　限	講義　（実習）
12：15	～	13：00		昼　休　み
13：00	～	13：15		清　　掃
13：20	～	14：50	3　　限	講義　（実習）
15：00	～	16：30	4　　限	講義　（実習）
16：30	～	16：35		終　　礼
16：40	～	17：30		自主学習

＊　授業時間は９０分（１コマ）とする。

＊　ショートホームルーム・終礼で出欠確認する。

規　　約

【遅　刻】

授業開始１５分までを遅刻、それ以上は欠課１とする。
さらに６０分以上の遅刻は欠課２とする。

【早　退】

授業開始３０分以内の早退は欠課２とし、
３１分から４５分後の早退は欠課１となる。
さらに４６分から７５分後の早退は欠課１とし、
７６分以上での早退は、早退１とする。

【欠課・欠席】

出席時間が授業時間数の３分の２に達しない者は、その科目に
ついての評価を受ける資格を失う。

週番の役割

１．週番は２人組で１週間担当します。

２．週番の役割に不備があった場合は１週間延長されます。

３．必ず２人で仕事をしてください。２人の責任になります。

１．　講義準備・片付け

黒板・教卓周囲の清掃
おしぼり・チョークの準備・補充
マイクの準備
黒板消しの清掃

＊　講義終了報告　（終了後すぐに内線で教員室へ）

２．　最終戸締まり確認

教室・３階実習室・４階実験室・　ロッカー室・
トイレ・廊下　etc

３．　電気・除湿器の管理（水抜き）/ 冷暖房

ON・OFF確認

４．　教室内の整理・整頓

忘れ物確認―職員室に届ける

５．　セキュリティー看板（立入り禁止）の管理

６．　学級日誌を記入し、教員に提出

７．　最終確認報告後帰宅

＊ 掲示物の管理
＊ おしぼりは毎日、石鹸で洗うこと

学 校 法 人　南 学 園
鹿児島医療福祉専門学校
歯 科 衛 生 学 科
〒890-0034
鹿児島市田上八丁目21番3号
TEL　099-281-9940（直通）
FAX　099-281-9915